



デジタルワイヤレスインターカムシステム

型名 **WD-D10** シリーズ 取扱説明書

お買い上げありがとうございます

ご使用前にこの「取扱説明書」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

はじめに

もくじ

はじめに

特長	3
安全上のご注意	4
使用上のご注意	5
本システムの使用周波数帯に関わるご注意	5
防塵／防水性能および使用環境について	6
正しくお使いいただくためのご注意	6
システム構成	8
システム構成図	8
システム構成表	8
システムタイプ	9
各部の名称とはたらき (機器接続方法)	12
ポータブルベースステーション WD-D10PBS / ポータブルトランシーバー WD-D10TR	12
ベースステーション WD-D10BS	14
ホールマスター WT-MC60	17
充電台 WD-C100CR	19
コントロールマイクロホン WD-UM100	19
イヤホンマイクアダプター WD-UM310	20
無線機接続ケーブル WD-RC100	20

準備する

端末を準備する	21
バッテリーの取り付け／取りはずしをおこなう	21
バッテリーを充電する	21
ベルトクリップを取り付ける	22
コントロールマイクロホンを接続する	22
無線機接続ケーブルを接続する	23
端末の電源を入れる／切る	24
WD-D10BS の電源を入れる／切る	24
WD-D10PBS / WD-D10TR の電源を入れる／切る	24
端末を登録する	25
親機に子機を登録する	25
WD-D10PBS を子機モードで起動する	26
各種機能を設定する	27
受話音量レベルを調整する	27
バッテリー残量を確認する	27
設定メニューモードで設定する	28
キーロックする／解除する	29
トークボタン動作設定を変更する	29
強制再接続をおこなう (子機モードのみ)	30
設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用してファームウェア を更新する	30
トランシーバー使用中のお知らせ音について	31
音声ガイドについて	32

通話をする

動作モードについて	33
通話をする (グループ通話モード)	34
圏外に移動したとき	34
グループを切り換える	35
すべてのグループと通話する (一斉通話モード)	36
外部機器を利用する	36
放送する	37
放送機能について	37
[放送] ボタンを押して放送する	37
[TALK] ボタンを押して放送する	38
[放送(トーク連動)] ボタンを押して放送する	38
外部無線連絡をおこなう	39
外部無線連絡の概要	39
外部無線連絡機能について	40
[外部無線連絡] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう	40
[TALK] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう	41
[外部無線連絡(トーク連動)] ボタンを押して外部無線連 絡をおこなう	41
高音質モードで通話する	42
高音質モードの概要	42

リスニングモードを使う


リスニングモードについて	43
リスニングモードの概要	43
リスニングモードの制限事項	44
リスニングモードの表示	44
リスニングモード子機から通話する (リスニングト ーク)	44
リスニングモード子機から通話する (一斉通話モ ード)	45
グループを切り換える	45
グループ通話モードに切り換える	46

その他

こんなときは	47
アフターサービスについて	48
仕様	48

この取扱説明書の見かた

■本文中の記号の見かた

- ご注意： 操作上の注意が書かれています。
- メモ： 機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。
-  参考ページや参照項目を示しています。

■本書の記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などをおこなうことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では™、®、©などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書では、ポータブルベースステーション WD-D10PBS（親機モード）およびベースステーション WD-D10BS を「親機」、ポータブルベースステーション WD-D10PBS（子機モード）およびポータブルトランシーバー WD-D10TR を「子機」と表記する場合があります。
- 本書ではポータブルベースステーション WD-D10PBS およびポータブルトランシーバー WD-D10TR を含む無線機を総称して「トランシーバー」と表記する場合があります。

特長

- 1.9 GHz 帯デジタル通信技術の採用により、明瞭な音での通話、秘匿性を実現します。
- 免許および申請手続きは一切不要ですので、設置していただいたその日から使用ができます。
- ポータブルベースステーション WD-D10PBS またはベースステーション WD-D10BS 1台を使った小規模システムから、複数のベースステーションを組み合わせた大規模システムまで柔軟なシステム構築が可能です。
- ベースステーション（親機）には通常音質モードで最大10台、高音質モードで5台の子機が接続できます。
 - ※ 通話時の音質モードの初期設定では通常音質モードに設定されていますが、より明瞭で聞き取りやすい音質での通話が可能な高音質モードに設定することができます。設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。
 - ※ ベースステーション2台以上をベースリンクした場合も同様です。
- 同時に双方向の通話が可能です。
- 子機を受信専用にするリスニングモードを使用すると、子機の動作や使用環境に制限がありますが、少ないベースステーションでより多くの子機が運用できます。
- 複雑な操作なしに、トランシーバーのトークボタンを押すだけでいつでもすぐに通話することができます。
- 最大4グループに分けることができ、階別のグループ通話や、業務担当グループごとのグループ通話ができます。グループ分けの運用でも、全員への一斉連絡や他のグループの人とも通話ができます。
- 接話型のコントロールマイクロホンを使用することで、高騒音下でも騒音を抑えた明瞭な音で通話ができます。
- 外部音声をインカム通話に入力したり、インカム通話を音声モニターなどに出力できます。
- ポータブルベースステーション WD-D10PBS は、子機モードでは約30時間、親機モードでは約8時間（ポータブルトランシーバー4台接続時）連続使用できます。
- ポータブルトランシーバー WD-D10TR は約24時間連続使用できます。

はじめに

安全上のご注意

■ 絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容（表示と意味）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

 **危険**

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。


 **警告**


この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


 **注意**

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■ 絵表示の例

 △記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容を示しています。

 ⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）を示しています。

 ●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容（左図の場合はACプラグをコンセントから抜く）を示しています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

 **危険**

プロパンガス、ガソリン等の可燃性ガスの発生するような場所では使用しない
引火、爆発の予防のためにご注意ください。



 **警告**

空港施設、鉄道施設、港湾、病院などの管理区域に指定されている場所での無線機器の使用については、各施設管理者にお問い合わせ、ご確認の上でご使用ください。



バッテリーパック、充電器、ACアダプターは、専用の機器以外には使用しない



落下などにより破損した部品には直接触らない
怪我の原因となります。



警告

機械に巻き込まれる恐れのある場所では、コントロールマイクロホン等のケーブルやネックストラップを首にかけない
怪我の原因となります。



トランシーバーにストラップを取り付けるときは、ストラップを持ってトランシーバーを振り回さない
不注意により、トランシーバーが他人に当たり、傷つけることがあります。



濡れたトランシーバーとバッテリーパックを充電しない
火災や感電の原因となります。



充電端子を金属等でショートさせない

火災・故障の原因となります。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。



指定以外の機器で充電しない

弊社製ポータブルトランシーバー WD-D10PBS、WD-D10TR およびそのバッテリーパック専用の充電器以外では充電しないでください。
バッテリーパックの破裂や液漏れにより、火災やけがの原因となります。



布や布団で覆ったりした状態で充電しない

熱がこもり、ケースや部品が変形したり、火災の原因となります。風通しの良い状態でご使用ください。



不要になった電池パックは、一般家庭ゴミとして捨てない

電池パックは、最寄りの充電リサイクル協力店、弊社営業窓口または、代理店へお持ちください。捨てられた電池がゴミ収集車内などで破壊され、発火、発煙の原因となる恐れがあります。



高温になる場所（火のそば、暖房機のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用、保管、放置しない
火災、やけど、怪我の原因となります。



万一、煙が出ている、変なにおいがするなどのときは、すぐに電源を切る

ベースステーション WD-D10BS や充電台の異常であれば、すぐに電源プラグを抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなったことを確認してお買い上げ販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理・分解は危険ですから絶対におやめください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



表示された電源電圧（交流 100 V）以外で使用しない

火災や感電の原因となります。



分解・改造しない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電・故障の原因となります。



はじめに

 警告

雷が鳴り始めたら、安全のため早めに電源を切り、充電器を使用の場合は電源コードを電源コンセントから抜いて使用を控える



雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。

本製品は PHS と同様の周波数帯（1.9 GHz 帯）と平均出力（10 mW 以下）になっておりますが、医用機器のすぐ近くで使われることが想定される場合は、事前に十分な検証をおこなった上で導入するようにしてください。

 注意

外部端子には指定のコントロールマイクロホン、ケーブル以外は接続しない
故障の原因となることがあります。



アンテナの先端が目には触れないように注意する



ベルトクリップに指をはさまないよう注意する



本体が結露した場合は、結露がなくなるまで使用しない



自然乾燥させるか、長い時間同じ環境に置くなどして結露がなくなってから使用してください。

イヤホンの音量は上げすぎない



耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

イヤホンをつけたままでポータブルトランシーバーの電源の入/切やプラグの抜き差しをしない
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



日本国外に持ち出さない



本システムは日本国内用に設計されています。国外では利用できません。

使用しないときは



長期間で使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグを抜いてください。

使用上のご注意

- ポータブルトランシーバーおよびポータブルベースステーションの端末と、外部の無線システムはできるだけ離して使用してください。
近すぎると電波障害の影響で誤動作を起こすことがあります。
- 乾燥した場所でイヤホンを使用したとき、耳にピリピリとした刺激を感じることがありますが、これは人体や接続した機器に蓄積された静電気によるものでイヤホンの故障ではありません。天然素材の衣服を身につけるなど人体や衣服への静電気の蓄積を防ぐことで発生しにくくなります。

本システムの使用周波数帯
に関わるご注意

本システムは、1,895.616 ~ 1,902.528 MHz の全帯域を使用する無線設備です。

本システムの無線機器には、1.9 GHz 帯を使用するデジタルコードレス電話の無線局の無線設備で、時分割多元接続方式広帯域デジタルコードレス電話を示す右記のマークが表示されています。

1.9—D

本システムは、ARIB（一般社団法人電波産業会）の標準規格「ARIB STD-T101」に準拠しています。

運用にあたっては電波法等、法律に基づいた運用が必要です。

■ 電波に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、PHS の無線局のほか異なる種類のデジタルコードレス電話の無線局が運用されています。

- 1 本システムは、同一周波数帯を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、本システムから他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の送信を停止した上、お買い上げ販売店、または JVCケンウッドカスタマーサポートにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- 2 その他、何かお困りのことが起きたときは、お買い上げ販売店、または JVCケンウッドカスタマーサポートにお問い合わせください。

はじめに

防塵／防水性能および使用環境について

- ポータブルベースステーション WD-D10PBS は設計段階において IP67 相当、ポータブルトランシーバー WD-D10TR は IP54 の防塵／防水性能の社内試験を行いその性能を確認しておりますが、実際のご使用にあたって、すべての状況で防塵／防水性能を保証するものではありません。
 - ※ IP67 (耐塵・防浸型) :
 - 水深 1 m の真水・静水に静かに沈め、指定以外の圧力を加えず、30 分後に引き上げてても有害な影響がでない。
 - ※ IP54 (防塵・防沫型) :
 - 塵埃の侵入を完全に防止できないが電子機器の動作には問題がなく、あらゆる方向からの水の飛まつによって機器が影響を受けない。
- 通常の使用状態で IP67 相当の防塵／防水性能が維持できる期間は 1 年です。(端子カバー、バッテリーカバー装着時)
 - ※防塵／防水性能維持のための特別なメンテナンスプログラムは用意してございません。
 - 端子カバーやバッテリーカバーは取り付ける位置を合わせてから固定してください。また、取り付ける際には、微細なゴミ(微細な繊維、髪の毛、砂など)をはさんでいないか、ご確認ください。
 - トランシーバーが濡れている状態で端子カバーやバッテリーカバーの開閉を行わないでください。
 - スピーカー／マイク端子に専用オプションを接続していて、付属のマイクプラグ固定金具で使用している場合のトランシーバー本体は IP67 の防塵／防滴仕様となります。なお、オプション自体の防塵／防水性能は各オプション製品により異なります。上記以外のオプションを接続する場合は、防塵／防水にはなりません。
 - 付属の充電台や AC アダプターは防水仕様ではありません。トランシーバーが濡れている状態では使用しないでください。
 - トランシーバーに衝撃を与えた場合は、防塵／防水性能に影響を与える場合があります。
 - 確実に防水性能を維持したい場合は、お買い上げ販売店または JVC ケンウッド カスタマーサポートにお問い合わせください。
- テレビやラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。
 - 石鹸水、洗剤、調味料、ジュース、海水、油など水道水以外のものをかけたり、浸けたりしないでください。また、高温のお湯や冷水に浸けたり、かけたりしないでください。
- 医療現場での消毒について
 - トランシーバー本体の素材は「消毒用エタノール」の使用を考慮しています。消毒液での拭き取りなどは問題ありませんが、防水については保護等級範囲内で使用してください。

正しくお使いいただくため
のご注意

- 技術基準適合証明ラベルについて
 - ベースステーション WD-D10BS、ポータブルベースステーション WD-D10PBS およびポータブルトランシーバー WD-D10TR には、「技術基準適合証明品」をあらわす証明ラベルが貼ってあります。この証明ラベルを剥がして使用することは、電波法により禁止されています。
- ポータブルベースステーション／ポータブルトランシーバーについて
 - 落としたり、ぶつけたりしないでください。精密機器でするので強い衝撃をあたえると故障の原因となります。
- コントロールマイクロホン、イヤホンマイクアダプターについて
 - コントロールマイクロホン、イヤホンマイクアダプターおよびイヤホンは適合機種以外のもを使用しないでください。誤動作の原因となります。
 - コントロールマイクロホンやイヤホン、イヤホンマイクアダプターを抜くときは、ケーブルを引っ張らないでください。断線の原因となります。必ずプラグ部を持って抜いてください。
 - プラグの金属部を手で触ったりしないでください。接触不良の原因となります。汚れた場合は、乾いたきれいな布などでふき取ってください。
 - コントロールマイクロホンやイヤホンマイクアダプターを接続するときは、必ず子機の電源を OFF にしてからおこなってください。電源が ON の状態で接続すると、保護装置がはたらき、子機本体での操作ができなくなります。コントロールマイクロホンやイヤホンマイクアダプターも動作しません。
 - コントロールマイクロホンのプラグは、まっすぐ差し込んでください。

はじめに

■ システムについて

- 本デジタルワイヤレスインターカムシステムは無線通信を使用しているため、電波の届かない場所に移動するとノイズがでたり、通話が途絶えたりすることがあります。
- ポータブルベースステーション WD-D10PBS とポータブルトランシーバー WD-D10TR では、通話距離が異なります。

下記の見通し距離をめやすにご使用ください。

※ 使用する環境や条件により、通話距離は異なります。

- WD-D10TR を子機として使用した場合：
約 100 m (約 30 ~ 50 m*)
- WD-D10PBS を子機として使用した場合：
約 250 m (約 50 m*)

*：屋内で使用した場合の通話距離

- 機器を長時間、直射日光の当たる場所や暖房器具の近くに放置しないでください。
 - ハウリング現象（ピーンあるいはキャンという音）を起こした場合はスピーカーの音量を絞るか、マイクの向き、位置などを変えてください。
 - 電波環境や設置状況により、接続できる台数が少なくなる場合があります。
- ### ■ ポータブルベースステーション／ポータブルトランシーバーのバッテリー（充電式電池）について
- 高温になる場所（直接日光の当たる場所など）に放置しないでください。液漏れや寿命を早める原因になります。
 - バッテリーの充放電回数のめやすは次のとおりです。

機種	充電回数のめやす
ポータブルベースステーション WD-D10PBS	約 500 回
ポータブルトランシーバー WD-D10TR	約 500 回

※めやすの充電回数は、使用温度、使用時間、充電時の残容量などの条件によって大きく変わるため、保証するものではありません。

めやすの回数以下であっても使用時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命と思われるかもしれません。新しいものをお買い求めください。

- リチウムイオンバッテリー（充電式電池）のリサイクルについて



Li-ion

美しい環境維持にあなたも一役。リサイクルに協力しましょう。
ご不要になった電池は、貴重な資源を守るために破棄しないで、代理店または営業所へお持ちください。

■ 日常のお手入れについて

電源を切ってからバッテリーや電源プラグを抜いて、次のようにお手入れしてください。

- 汚れは乾いた柔らかい布などでふき取ってください。
- ひどい汚れは、水で薄めた中性洗剤に布を浸して固く絞ってから汚れをふき、乾いた布で水分をふき取ってください。

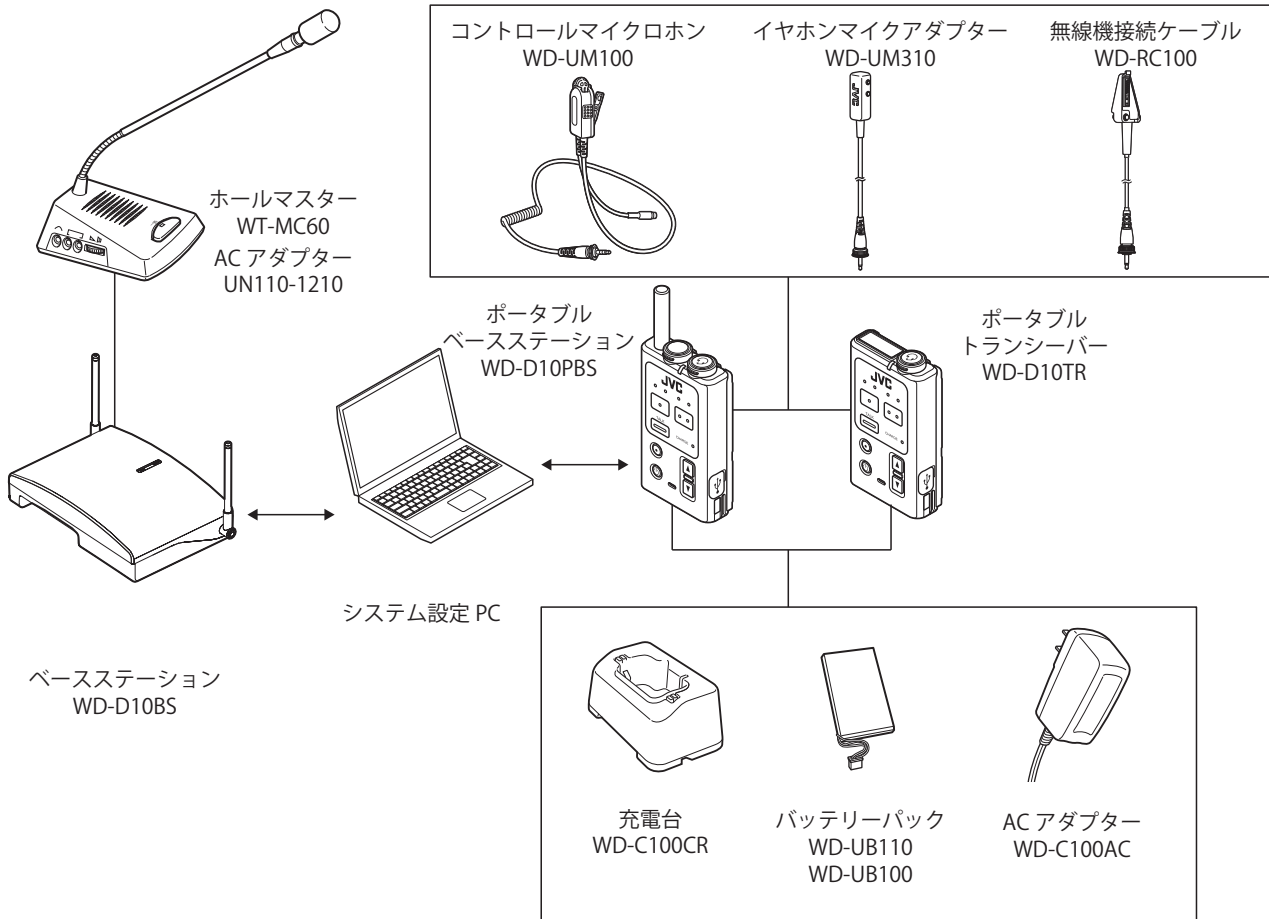
ご注意ください：

- ベンジンやシンナーは使用しないでください。ボディの損傷や故障の原因になります。

はじめに

システム構成

システム構成図



システム構成表

No.	機種名	商品名	備考
1	WD-D10PBS	ポータブルベースステーション	デジタルワイヤレスインターカムシステムの親機または子機として無線通信をおこなうトランシーバーです。
2	WD-D10TR	ポータブルトランシーバー	デジタルワイヤレスインターカムシステムの子機となるトランシーバーです。ポータブルベースステーションまたはベースステーションと無線通信を行います。
3	WD-D10BS	ベースステーション	ポータブルトランシーバーとの通信を行います。
4	WT-MC60	ホールマスター	ベースステーション WD-D10BS に接続してインカム通話に参加できます。
5	WD-C100CR	充電台	ポータブルベースステーション WD-D10PBS / ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用の充電台です。
6	WD-C100AC	AC アダプター	充電台 WD-C100CR 用の AC アダプターです。
7	WD-UB110	バッテリーパック	ポータブルベースステーション WD-D10PBS 用のバッテリーパックです。
8	WD-UB100	バッテリーパック	ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用のバッテリーパックです。
9	WD-UM100	コントロールマイクロホン	ポータブルベースステーション WD-D10PBS / ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用のコントロールマイクロホンです。(タイピン型)
10	WD-UM310	イヤホンマイクアダプター	ポータブルベースステーション WD-D10PBS / ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用の変換アダプターです。 KENWOOD ブランドのアクセサリ (コントロールマイクロホンなど) と接続して使用します。
11	WD-RC100	無線機接続ケーブル	ポータブルベースステーション WD-D10PBS 用の変換ケーブルです。 KENWOOD ブランドの機器を使用した、外部の無線システムに連絡する場合に使用します。

はじめに

システムタイプ

本システムは親機と子機を組み合わせるデジタルワイヤレスインターカムシステムです。システムは、親機のタイプによってポータブルタイプと据え置きタイプがあります。

メモ：

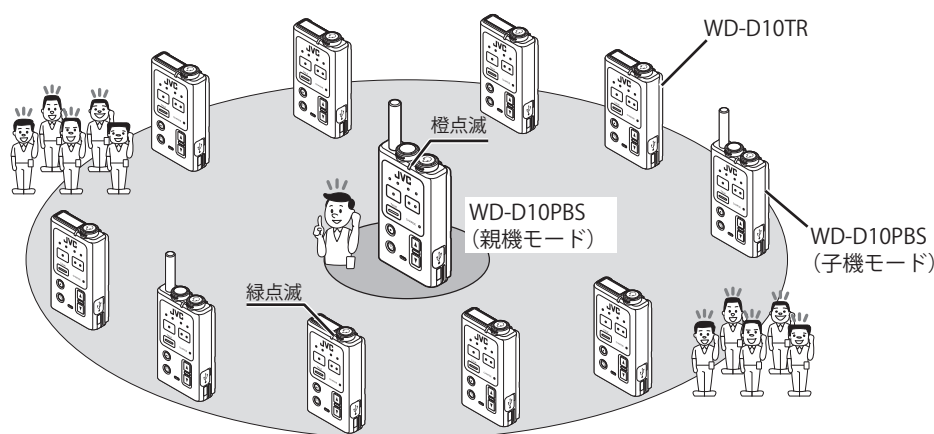
- お使いのシステムは、トランシーバーをお受け取りのときにすでに親機や子機が設定されています。システムの構成や設定について詳しくは、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

■ ポータブルタイプ

● スタンドアロン型システム

ポータブルベースステーション WD-D10PBS 1 台を親機として運用します。

子機はポータブルベースステーション WD-D10PBS (子機モード) またはポータブルトランシーバー WD-D10TR を通常音質モードでは最大 10 台、高音質モードでは最大 5 台接続できます (親機を含め、最大で 11 台 (高音質モード時 6 台) 間の同時通話が可能です)。



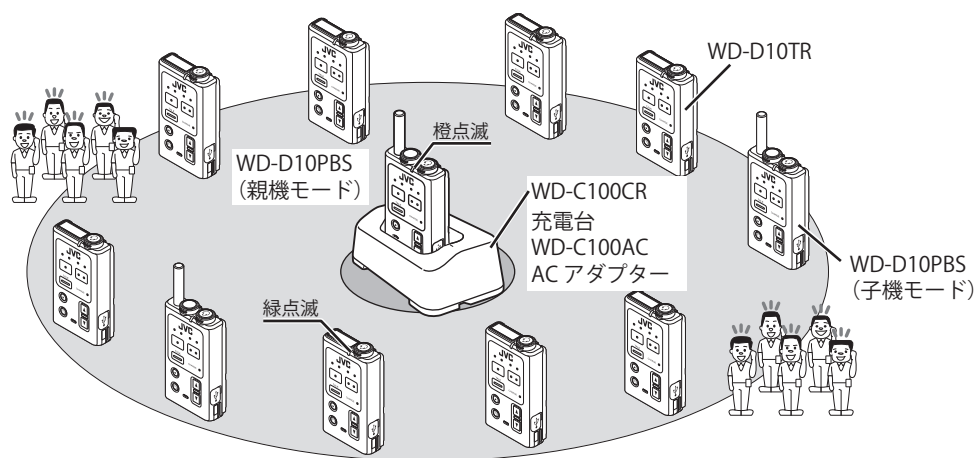
メモ：

- ポータブルベースステーションを子機として運用するには、WD-D10PBS 本体のモード切り換え (26 ページ) が必要です。
- システムの設定変更により音質モードを通常音質モードからより明瞭で聞き取りやすい音質での通話が可能となる高音質モードにすることができます。設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

はじめに

● スタンドアロン型システム (充電台運用)

ポータブルベースステーション WD-D10PBS 1 台を充電台に装着した状態で充電しながら親機として運用します。WD-D10PBS の電源を入れて充電台に装着してください。バッテリーの持続時間を気にせず使用できます。子機の接続台数は前頁のスタンドアロン型システム (9 ページ) と変わりません。



メモ：

- WD-D10PBS を充電しながら親機として運用するには、設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用してシステム設定していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。
- WD-D10PBS の電源を切った状態で充電台に装着した場合は通常の充電動作と同じになります。
- WD-D10PBS を充電しながら親機として運用する場合はバッテリーパックの寿命が通常よりも短くなる場合があります。バッテリーパックは、1 年をめぐりに交換することをおすすめします。
- WD-D10PBS を充電しながら親機として運用する場合は、WD-D10PBS と他のトランシーバーとは 20 cm 以上離して設置してください。
近づけすぎるとノイズが発生したり、充電、給電機能が停止する場合があります。停止してしまったときは一度充電台から WD-D10PBS をはずしてから装着しなおしてください。
- 充電台の充電ランプが点滅していたらエラーが発生しています。一度充電台から WD-D10PBS をはずしてから装着しなおしてください。
- WD-D10PBS を充電しながら親機として運用しているときは、外部無線連絡機能は使用できません。
- 0℃ ~ 40℃ の温度の室内で使用してください。
- 埃や油などの影響を受けないように使用してください。
- 充電端子は定期的に乾いた柔らかい布などを使ってクリーニングしてください。

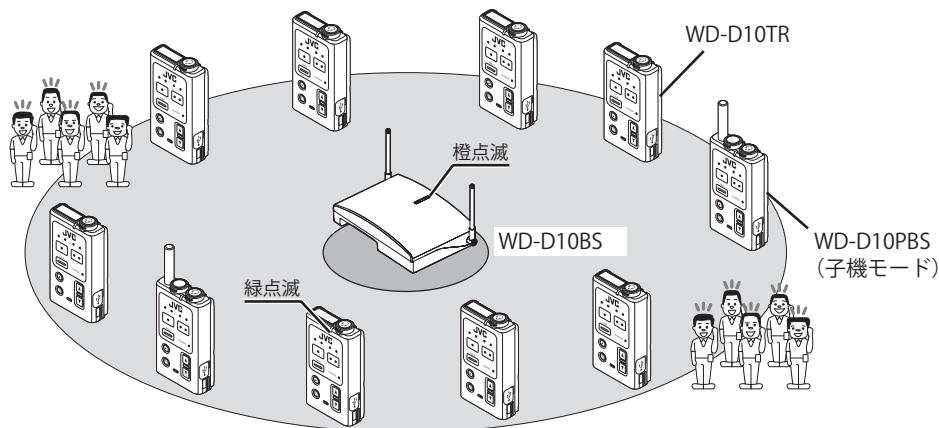
はじめに

■ 据え置きタイプ

● スタンドアロン型システム

ベースステーション WD-D10BS 1 台を親機として運用します。

子機はポータブルベースステーション WD-D10PBS (子機モード) またはポータブルトランシーバー WD-D10TR を通常音質モードで最大 10 台、高音質モードで最大 5 台接続できます (最大で 10 台 (高音質モード時 5 台) 間の同時通話が可能です)。



メモ:

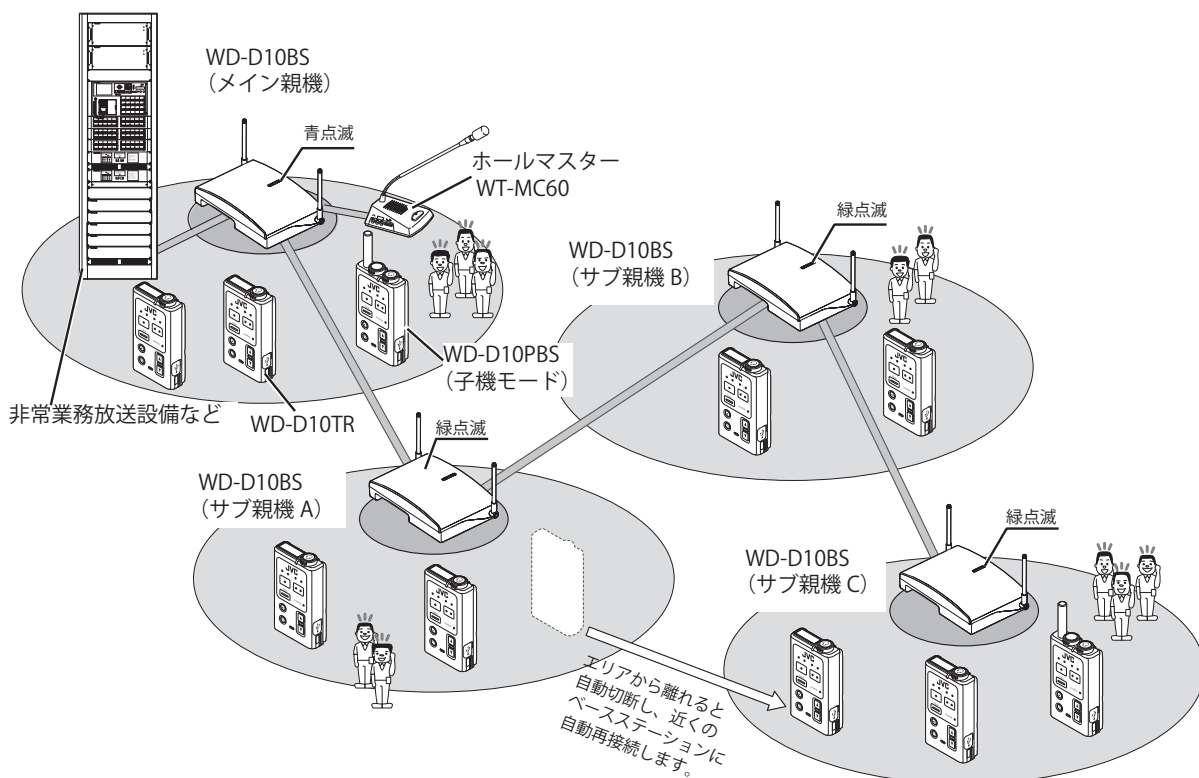
- ポータブルベースステーションを子機として運用するには、WD-D10PBS 本体のモード切り換え (26 ページ) が必要です。

● ベースリンク型システム

据え置きタイプのシステムでは、複数 (最大 4 台) のベースステーション WD-D10BS を有線で接続することで、エリアを拡張できます。

WD-D10BS の 1 台をメイン親機、その他 (最大 3 台) をサブ親機として運用します。

メイン親機の WD-D10BS には、外部機器の接続ができ、ホールマスターからインカム通話に参加したり、非常業務放送設備などからの音声をインカムに流すことができます。



メモ:

- エリアを移動したときのベースステーションの切り換えには時間がかかる場合があります。
- 移動先のベースステーションに空きチャンネルがあるときのみ接続できます。
- 同時接続台数は周辺の電波状況や設置状況、環境によって変わります。
- メイン親機のみ外部機器の接続ができます。

はじめに

各部の名称とはたらき
(機器接続方法)

メモ：

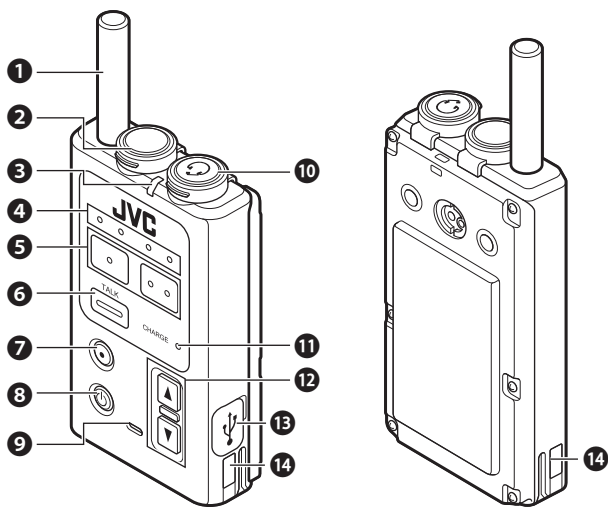
- 各機器の接続端子の詳しい接続方法に関しては、以下のWEBサイトの製品情報ダウンロードよりWD-D10シリーズの取扱説明書(設置・施工設計編)(PDFファイル)をダウンロードしてください。

https://www.jvc.com/jp/pro/wireless_incom/lineup/wd-d10/

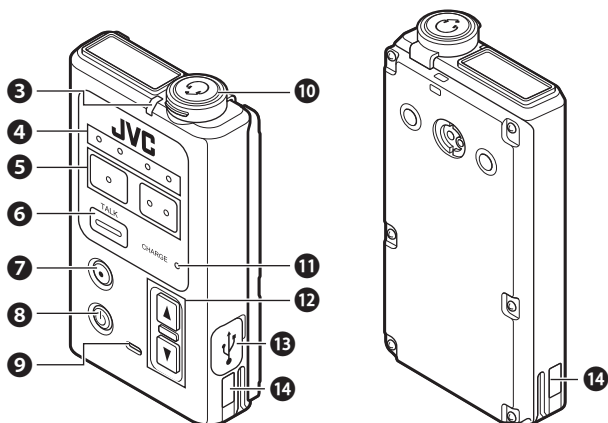


ポータブルベースステーション WD-D10PBS / ポータブルトランシーバー WD-D10TR

■ WD-D10PBS



■ WD-D10TR



① アンテナ

② 無線機接続端子

外部無線連絡をおこなうときに使用する、1系統の外部無線トリガー端子です。

③ 動作LED

トランシーバーの状態が表示されます。

表示	状態	
	親機モード	子機モード
緑点滅 (遅)	—	通常運用中/ リスニングトーク中
緑点滅 (速)	—	メニュー設定中
緑点灯	無線子機登録モード	
赤点滅 (遅)	バッテリー残量低下	
赤点滅 (速)	バッテリー切れ	
赤点灯	電源起動時	電源起動時/回線未接続 (エリア圏外、通話不可)
青点滅 (遅)	—	リスニングモード
青点滅 (速)	システムエラー	
青点灯	PCによる無線設定中	
橙点滅 (遅)	通常運用中	—
橙点滅 (速)	メニュー設定中	—
緑・橙 交互点滅	アップデート中	アップデート中

※ 点滅 (遅)：3秒に1回点灯
点滅 (速)：1秒に1回点灯

ご注意：

- 動作LEDが速く青点滅しシステムエラーを示したときは、ポータブルベースステーションWD-D10PBS / ポータブルトランシーバーWD-D10TRにコントロールマイクロホン等のプラグが最後まで差し込まれているか確認後、電源を入り/切りしてリセットしてください。それでも復帰しない場合はお買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

④ グループLED

現在の通話グループを表示します。

⑤ [機能1] ボタン / [機能2] ボタン

短押しまたは長押しすると、各ボタンに設定された機能を実行します。

- ・各ボタンには任意の機能を設定できます。各ボタンの名称と機能は、トランシーバーをお受け取りのときに変更されている場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

⑥ [TALK] ボタン

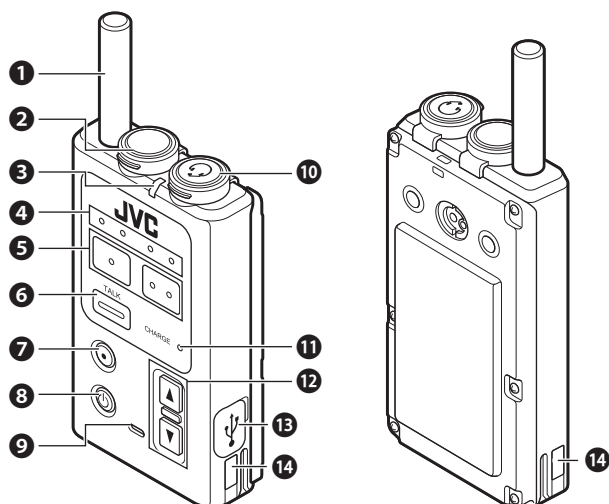
通話するときに押します。

- ・設定によっては、別売のコントロールマイクロホンまたはイヤホンマイクアダプターを接続すると使用できなくなります。詳しくは、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

はじめに

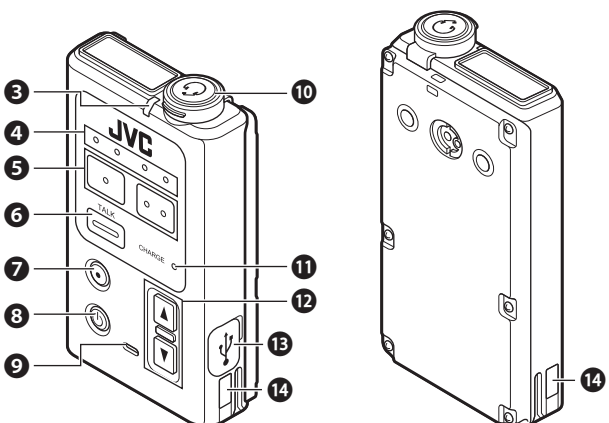
ポータブルベースステーション WD-D10PBS / ポータブルトランシーバー WD-D10TR (つづき)

■ WD-D10PBS



- ⑩ マイク端子／イヤホン端子
別売のコントロールマイクロホン、イヤホン、またはイヤホンマイクアダプターを接続します。適合機種以外のものは接続しないでください。
- ⑪ 充電 LED
充電の状態が表示されます。
 - ・点灯：充電中
 - ・点滅：充電準備中、または充電エラー
 - ・消灯：充電完了
- ⑫ [▲] / [▼] ボタン
受話音量レベルを調節します。受話音量は、[▲] / [▼] ボタンを押すたびに 15 段階に切り換わります。詳しくは「受話音量レベルを調整する」(※ 27 ページ) をご覧ください。
- ⑬ データ設定端子
トランシーバーをシステムへ登録したり、設定の変更などをおこなうときに使用します。
 - ・通常は使用しません。カバーを開けないでください。また、端子には触らないでください。
- ⑭ 充電接続端子

■ WD-D10TR

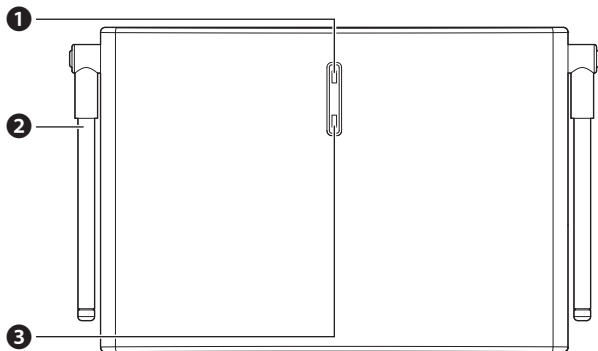


- ⑦ [一斉] ボタン
長押しすると、一斉通話を行います。
 - ・ [一斉] ボタンには任意の機能を設定できます。ボタンの機能は、トランシーバーをお受け取りのときに変更されている場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。
- ⑧ 電源ボタン
長押しすると、電源を入／切します。短押しすると、充電 LED が点滅してバッテリー残量を確認できます。
- ⑨ 内蔵マイク
コントロールマイクロホンを使用せずにトランシーバー本体で通話するときは、ここに向かって話します。
 - ・ 別売のコントロールマイクロホンまたはイヤホンマイクアダプターを接続すると使用できなくなります。

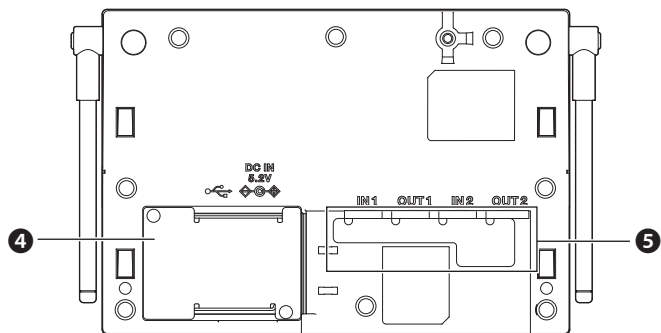
はじめに

ベースステーション WD-D10BS

■ 前面



■ 背面



① 動作 LED

ベースステーションの状態を LED の色で表示します。

② アンテナ

③ [登録] ボタン

ベースステーションに無線通信による子機登録をおこなうときに使用します。

④ DC プラグエリアカバー

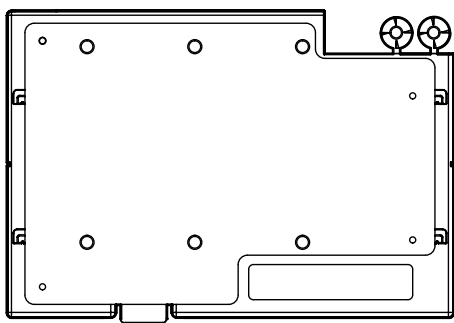
DC IN 端子に AC アダプターを接続するときや、データ設定端子、ベースリンク用端子台などを使用する場合にカバーをはずします。

⑤ 設定・調整エリアパッキング

外部音響機器を接続するときや音量を調整するとき、動作モード設定スイッチを使用するときなどにはずします。

■ 取付プレート

ベースステーションを壁や天井に設置するときを使用します。

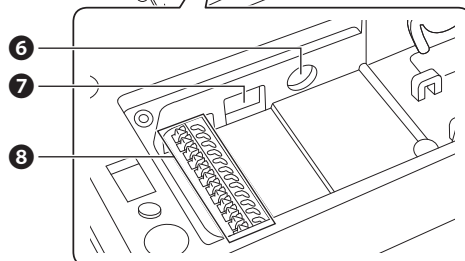
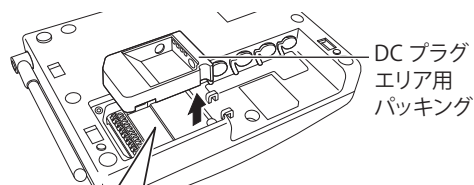


■ DC プラグエリアカバー内部

DC プラグエリアカバー内部には DC プラグエリア用パッキングがあります。パッキングをはずすと DC IN 端子やデータ設定端子、ベースリンク用や外部機器制御用の端子台が使用できます。

ご注意：

- DC プラグが汚れていると、通話にノイズでることがあります。定期的に乾いた布でふいてください。
- DC プラグの抜き差しは必ず電源を切った状態でおこなってください。



はじめに

⑥ DC IN 端子

ACアダプターのDCプラグを接続します。

⑦ データ設定端子

設定ソフトウェアWD-ZS10を使用してベースステーションをシステムへ登録したり、設定の変更をおこなうときに使用します。

ケーブルはUSBケーブル（Aタイプ - Micro Bタイプ）（別売）をご使用ください。

ご注意：

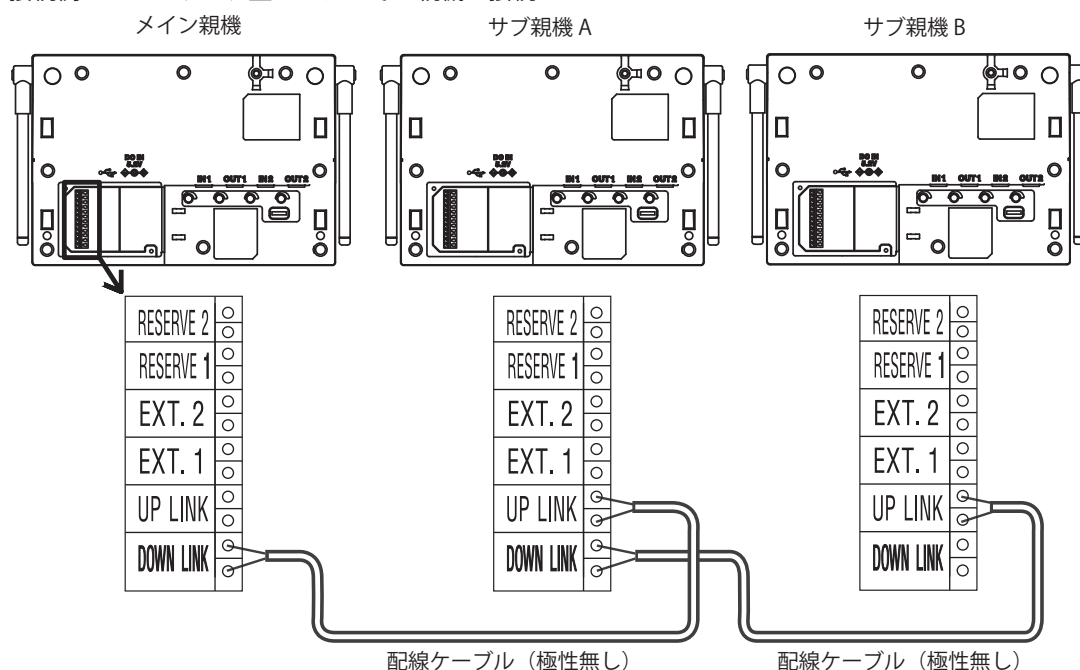
- USBケーブルの長さは2m以内のものをご使用ください。

⑧ ベースリンク／外部機器制御端子

ベースステーションをベースリンク型システムとして運用するときや、外部機器制御をおこなうときに使用します。

ベースリンク型システムで運用する場合は、①動作モード設定スイッチ（☞16ページ）で設定を変更し、各親機のベースリンク用制御端子台を配線ケーブルで接続します。

接続例：ベースリンク型システムでの親機の接続



WD-D10BS ベースリンク／外部機器制御端子

ピン No.	名称	説明
1	ベースリンク Down-Link	極性なし
2	ベースリンク Down-Link	極性なし
3	ベースリンク Up-Link	極性なし
4	ベースリンク Up-Link	極性なし
5	外部機器制御 1	a 接点 極性なし 最大 24V/1A
6	外部機器制御 1	a 接点 極性なし 最大 24V/1A
7	外部機器制御 2	a 接点 極性なし 最大 24V/1A
8	外部機器制御 2	a 接点 極性なし 最大 24V/1A
9	NC	予備端子
10	NC	予備端子
11	NC	予備端子
12	NC	予備端子

● 配線ケーブルの条件

ベースステーションとベースステーション間の接続ケーブルは2芯のツイストペアケーブルを使用します。下記のケーブル、または同等品を使用してください。

富士電線株式会社 「電子ボタン電話デジタル伝送用ケーブル ICT」

最大配線距離

線径 (mm)	配線距離 (m)
φ 0.5	600
φ 0.65	1000

はじめに

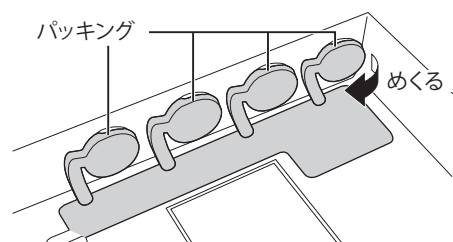
■ 設定・調整エリアパッキング内部

設定・調整エリアパッキング内部には外部音声入出力端子、音量調整つまみ、動作モード設定スイッチがあります。

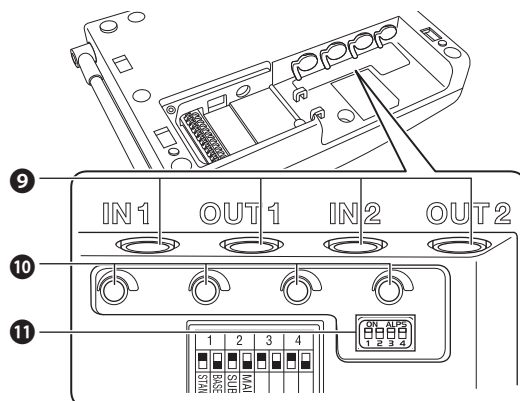
⑨ 外部音声入出力端子（2系統）

外部音響機器を接続することで、グループ通話などを外部に出力することができます。また、ホールマスター WT-MC60 などのマイクや外部機器を接続することで、グループ通話に参加することができます。

外部機器を接続するときは端子のパッキングをめくります。



防水性能を保つため、接続しないときは端子にパッキングをかぶせてください。

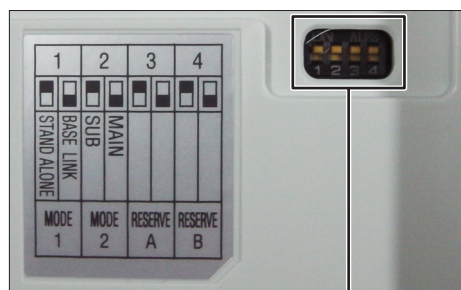


⑩ 外部音声入出力音量調整つまみ

接続した外部音響機器やマイクなどの音量を調整します。調整にはマイナスイドライバーが必要です。

⑪ 動作モード設定スイッチ

ベースステーションの端末タイプや動作モードを設定するときに使用します。



動作モード設定スイッチ



スタンドアロン型システム 親機
MAIN/SUB(SW2) はどちらに設定してもスタンドアロン型システムとして動作します。



ベースリンク型システム
メイン親機



ベースリンク型システム
サブ親機

■ 動作 LED の表示

表示	動作モード		
	スタンドアロン型システム 親機	ベースリンク型システム メイン親機	ベースリンク型システム サブ親機
緑点滅 (遅)	—	—	通常運用中
緑点灯	無線子機登録モード	無線子機登録モード	—
赤点滅 (遅)	電源起動時		電源起動時、回線未接続 (エリア圏外、通話不可)
青点滅 (遅)	—	通常運用中	—
青点滅 (速)	システムエラー		
青点灯	PC による無線設定中		
橙点滅 (遅)	通常運用中	—	—
緑・橙交互点滅	アップデート中		

※ 点滅 (遅) : 3 秒に 1 回点灯 点滅 (速) : 1 秒に 1 回点灯

ご注意：

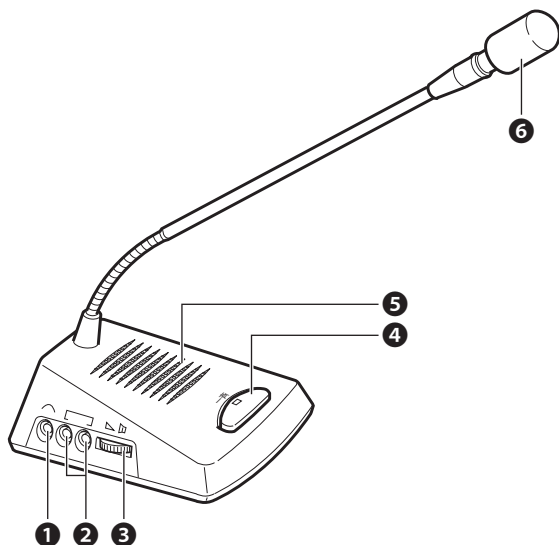
- 動作 LED が速く青点滅しシステムエラーを示したときは、ポータブルベースステーション WD-D10PBS やポータブルトランシーバー WD-D10TR にコントロールマイクロホン等のプラグが最後まで差し込まれているか確認後、電源を入り/切りしてリセットさせてください。それでも復帰しない場合はお買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

はじめに

ホールマスター WT-MC60

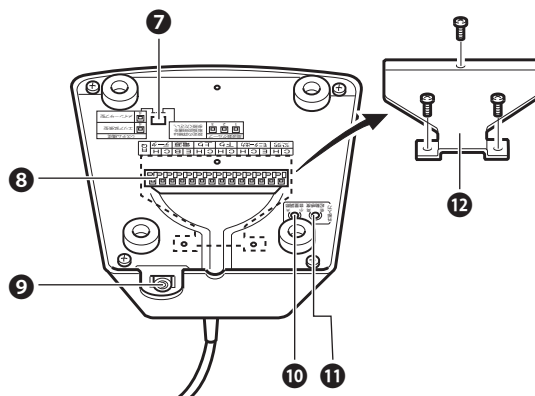
ベースステーション WD-D10BS に接続することでインカム通話に参加することができます。

【上面】



- ① **マイク音量調節ボリューム**
マイクの音量を調節します。
- ② **WT-T60 接続ランプ**
使用しません。
- ③ **モニタースピーカー音量調節つまみ**
モニタースピーカーの音量を調節します。
過度の力で回さないでください。故障の原因となります。
- ④ **【一斉】(通話) ボタン (ランプ)**
通話するときや、呼び出しに応答するとき、このボタンを押しながらマイクに向かって話します。通話中、ランプがオレンジ色に点灯します。
- ⑤ **モニタースピーカー**
モニター音声を出力します。
音量はスピーカー音量調節つまみで調節します。
- ⑥ **マイク**
通話するとき、このマイクに向かって話します。
 - ・通話中や移動するときにマイクのシャフト部を持たないでください。またねじったり、連続して屈曲させないでください。故障の原因になります。
 - ・マイクのシャフト部からきしみ音が発生することがありますが、構造によるもので故障ではありません。

【底面】



- ⑦ **設定スイッチ**
操作しないでください。
- ⑧ **接続端子**
ベースステーション WD-D10BS への接続のときに使用します。
接続方法については「WD-D10BS に接続する」(P. 18 ページ)をご覧ください。
- ⑨ **DC12V 電源入力端子**
AC アダプター (別売) から DC12V 電源を入力します。
AC アダプターについては、お買い上げ販売店または JVCケンウッドカスタマーサポートにお問い合わせください。
ご注意：
 - AC アダプターは必ず指定のものを使用してください。他の AC アダプターを使用すると、動作不良や故障の原因となることがあります。
- ⑩ **外部入力音量調節ボリューム**
使用しません。
- ⑪ **外部入力起動感度調節ボリューム**
使用しません。
- ⑫ **ホルダー (付属品)**
ケーブルを接続後、ホルダーを取り付けます。ケーブルが抜けないように、ケーブルとホルダーをワイヤークランプ (付属品) で固定します。

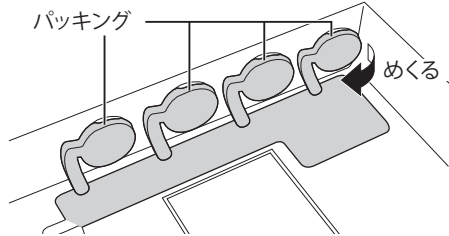
はじめに

■ WD-D10BS に接続する

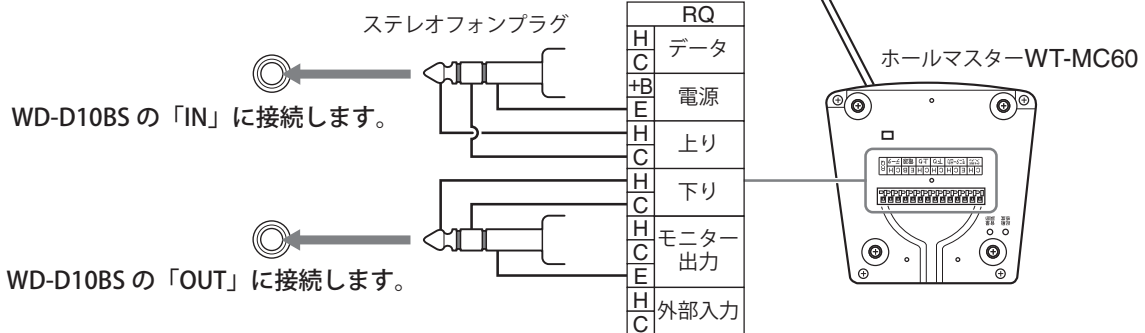
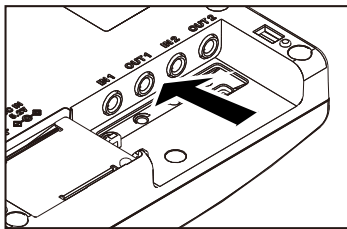
WT-MC-60 を WD-D10BS の外部音声入出力端子に接続できます。

ご注意：

- WD-D10BS の外部音声入出力端子に接続するときは端子のパッキングをめくり、接続してください。接続しないときは防水性能を保つため、端子にパッキングをかぶせてください。



WD-D10BS 外部音声入出力端子

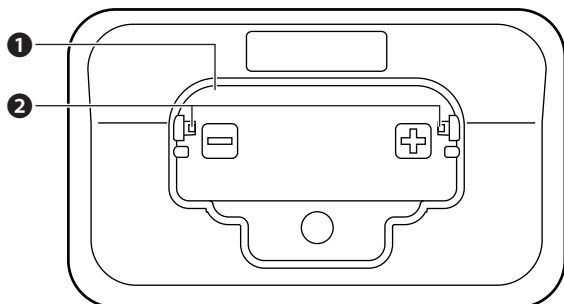


はじめに

充電台 WD-C100CR

充電台 WD-C100CR は別売の AC アダプター WD-C100AC または AC アダプター UBC-5ML と組み合わせて使用します。

■ 上面

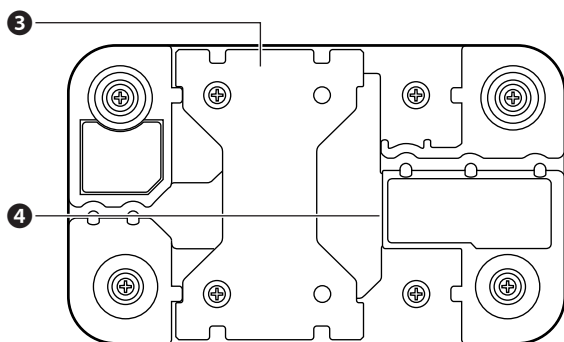


① トランシーバー充電口

充電するトランシーバーを挿入する充電口です。

② 充電端子

■ 底面

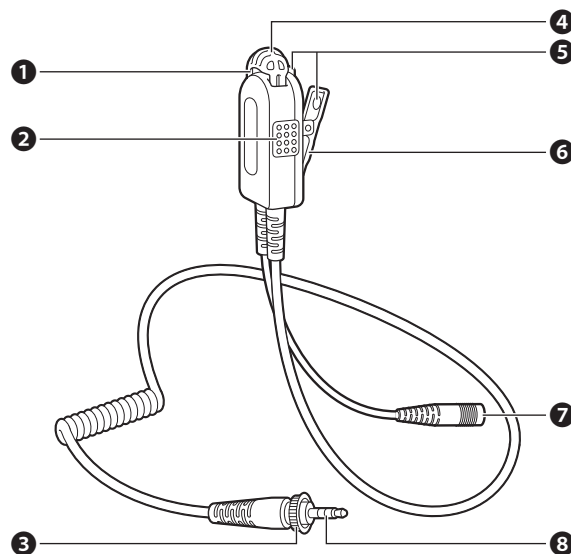


③ 連結用ブラケット

複数（最大 6 台）の充電台を連結する場合に使用します。充電台の連結方法について詳しくは、充電台 WD-C100CR 取扱説明書をご覧ください。

④ DC IN 端子

AC アダプターの DC プラグを挿入します。

コントロールマイクロホン
WD-UM100

① マイク部

マイク部は接話タイプです。話すときは、口もとをできるだけ近づけてください。（1～2 cm）

② [TALK] ボタン

インターカムとして業務連絡をするときこのボタンを押します。

③ キャップ

トランシーバーに接続したあと、キャップを回して固定します。

④ 風防（消耗品）

風の影響を受けないように風防の使用をおすすめします。

⑤ ストラップ用穴

ネックストラップなどの取り付けにご使用ください。

⑥ マイククリップ

衣服の襟元などに装着するときご使用ください。

⑦ イヤホン接続端子

付属のイヤホンを接続します。

⑧ トランシーバー接続プラグ

適用トランシーバーに接続します。

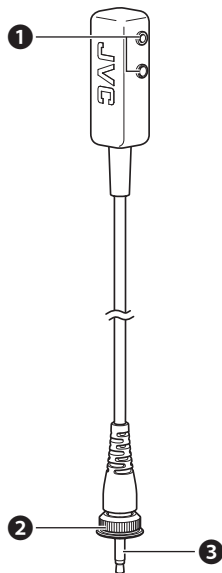
ご注意：

- プラグが抜けないように奥までしっかりと端子に差し込み、キャップを締めてください。キャップが最後まで締まっていないと、トランシーバーとの接続不良や雑音発生の原因となることがあります。また、防水性が発揮されませんのでご注意ください。
- プラグが汚れていると、通話にノイズがはいることがあります。定期的に乾いた布でふいてください。
- プラグの抜き差しは必ず電源を切った状態でおこなってください。

はじめに

イヤホンマイクアダプター
WD-UM310

イヤホンマイクアダプター WD-UM310 は、ポータブルベースステーション WD-D10PBS およびポータブルトランスミッター WD-D10TR に KENWOOD ブランドのアクセサリを接続するための変換アダプターです。



- ① マイク端子／イヤホン端子
対応アクセサリを接続します。
- ② キャップ
トランスミッターに接続したあと、キャップを回して固定します。
- ③ トランスミッター接続プラグ
適用トランスミッターに接続します。

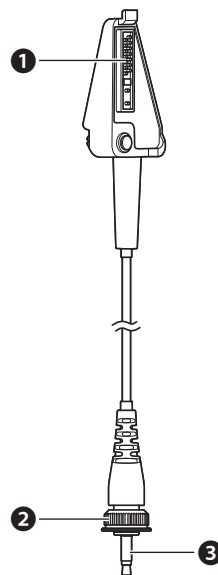
ご注意： _____

- プラグが抜けないように奥までしっかりと端子に差し込み、キャップを締めてください。キャップが最後まで締まっていないと、トランスミッターとの接続不良や雑音発生の原因となることがあります。また、防水性が発揮されませんのでご注意ください。
- プラグが汚れていると、通話にノイズがでることがあります。定期的に乾いた布でふいてください。
- プラグの抜き差しは必ず電源を切った状態でおこなってください。

無線機接続ケーブル WD-RC100

無線機接続ケーブル WD-RC100 は、デジタルワイヤレスインターカムシステム WD-D10 シリーズと外部の無線システム（KENWOOD ブランド）で通話するための変換ケーブルです。

ポータブルベースステーション WD-D10PBS に接続して使用します。



- ① 無線機接続端子
外部無線システムのトランスミッター（KENWOOD ブランド）に接続します。
- ② キャップ
トランスミッターに接続したあと、キャップを回して固定します。
- ③ トランスミッター接続プラグ
適用トランスミッターに接続します。

ご注意： _____

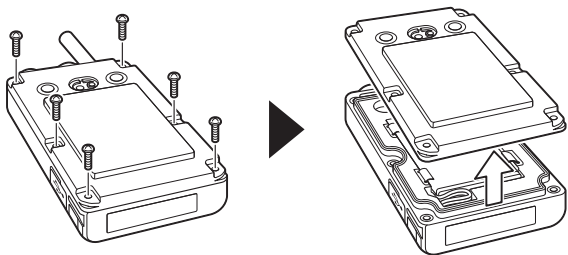
- プラグが抜けないように奥までしっかりと端子に差し込み、キャップを締めてください。キャップが最後まで締まっていないと、トランスミッターとの接続不良や雑音発生の原因となることがあります。また、防水性が発揮されませんのでご注意ください。
- プラグが汚れていると、通話にノイズがでることがあります。定期的に乾いた布でふいてください。
- プラグの抜き差しは必ず電源を切った状態でおこなってください。

端末を準備する

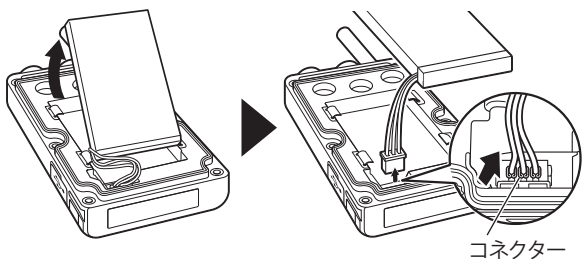
バッテリーの取り付け／取りはずしをおこなう

お受け取りのときに、トランシーバーにはすでにバッテリーパックが装着されています。バッテリーパックを交換する場合は、以下の手順で取りはずし、取り付けをおこなってください。

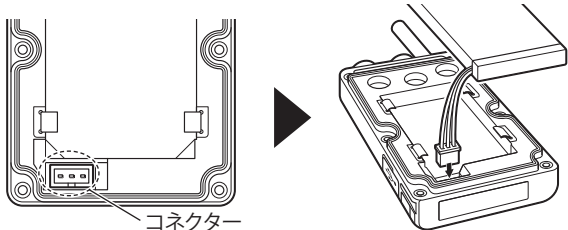
- 1 トランシーバー本体背面のねじ（6本）を取りはずし、背面カバーを取りはずす。



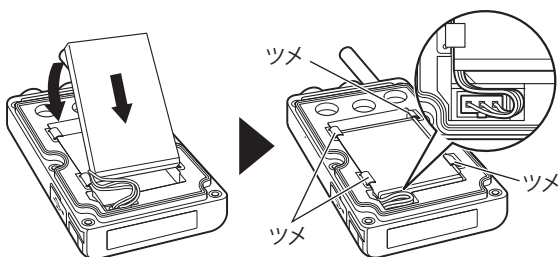
- 2 バッテリーパックを取り出し、バッテリーパックのコネクターを取りはずす。
コネクターを取りはずすときは、コネクターの根元を持ってゆっくり真上に引き上げてください。



- 3 バッテリーパックのコネクターをトランシーバー本体のバッテリー接続コネクターに接続する。



- 4 バッテリーパックのケーブルを図のようにまとめ、バッテリーを押し込む。
ツメがバッテリーパックの上にてるまで、しっかりと押し込んでください。



- 5 トランシーバー本体の背面カバーを取り付け、ねじ（6本）を締め付ける。
バッテリーパックを取り付けたあとは、背面カバーを取り付け、ねじを締め付けて確実に固定してください。

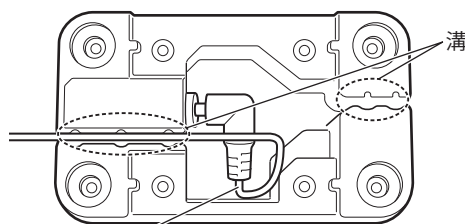
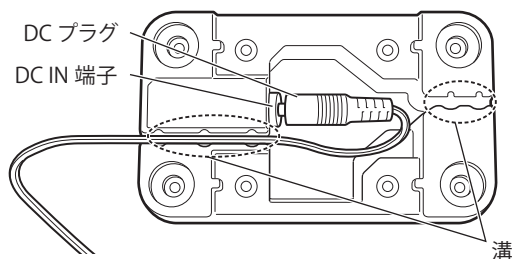
ご注意：

- 背面カバーを取り付けるときは、防塵防水機能の性能維持のため、微細なゴミ（微細な繊維、髪の毛、砂など）をはさんでいないかご確認ください。
なお、確実に防水性能を維持したい場合は、お買い上げ販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートにお問い合わせください。

バッテリーを充電する

トランシーバーをご使用になるときは、あらかじめ専用充電台 WD-C100CR で必ず充電してください。

- 1 充電台底面のブラケットを取りはずし、ACアダプターの DC プラグを充電台の DC IN 端子に差し込む。
ブラケットの取り付け、取りはずしについては充電台 WD-C100CR の取扱説明書をご覧ください。
- 2 設置する場所に合わせて、ACアダプターのケーブルを左右どちらかの溝にはめ込む。



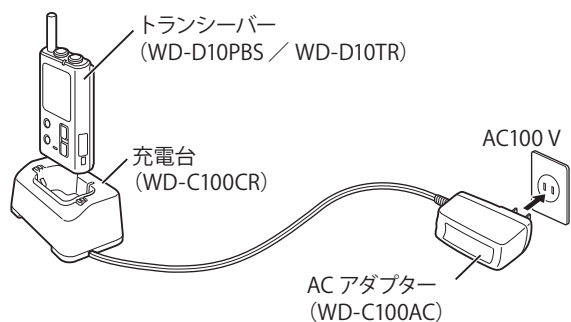
ACアダプター UBC-5ML を使用する場合は、図のようにケーブルを引き回してください。

※ 図では左側の溝にはめています。

- 3 ブラケットを元通りに取り付け、ACアダプターをコンセントに差し込む。

準備する

4 バッテリーパックを装着した状態のトランシーバーを充電台に差し込む。



トランシーバーの充電 LED が赤点灯して充電が開始されます。

- トランシーバーの電源が入ったまま充電台に差し込むと自動で電源が切れますが、安全のため、充電するときはトランシーバーの電源を切ってください。
- トランシーバーの金属端子が充電台の端子にしっかりと接触していることを確認してください。

充電が完了すると、充電 LED が消灯します。トランシーバーを抜き取ってください。

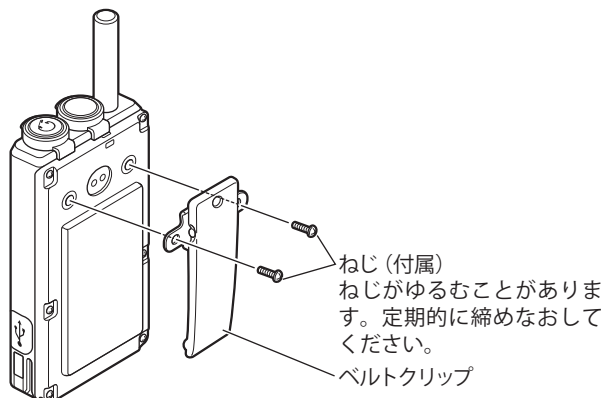
- 充電完了までにかかる時間のめやすは以下のとおりです。
- | | |
|-----------|----------|
| WD-D10PBS | : 約 6 時間 |
| WD-D10TR | : 約 5 時間 |

ご注意：

- WD-D10PBS および WD-D10TR を充電するときは、必ず専用充電台 WD-C100CR を使用してください。

ベルトクリップを取り付ける

付属のベルトクリップを使って、トランシーバーをベルトなどにつけて使用することができます。



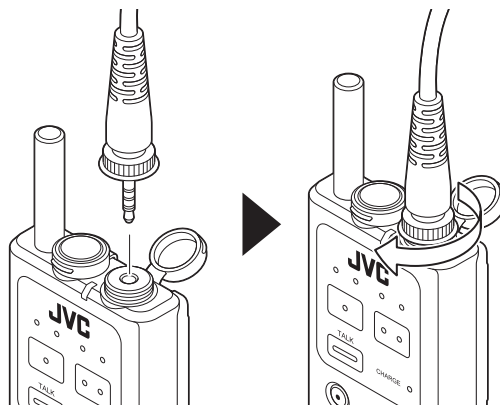
コントロールマイクロホンを接続する

別売のコントロールマイクロホンを使用すると、高騒音下でも明瞭な音で通話することができます。

また、イヤホンマイクアダプター WD-UM310 を使用することで、KENWOOD ブランドのアクセサリを接続することもできます。

- 適合機種：
 - コントロールマイクロホン WD-UM100
 - イヤホンマイクアダプター WD-UM310

1 トランシーバーの接続端子に接続プラグを差し込み、キャップを矢印の方向へ回して固定する。



メモ：

- ご使用の前に、接続機器の取扱説明書を必ずお読みください。
- 必ずトランシーバーの電源を切った状態で接続してください。電源が入った状態で接続すると、保護装置はたらき、トランシーバーでの操作ができなくなります。コントロールマイクロホンやイヤホンマイクアダプターも動作しません。
- コントロールマイクロホン、イヤホンマイクアダプターの対応アクセサリについては、デジタルワイヤレスインターカムシステム WD-D10 シリーズのホームページをご覧ください。

https://www.jvc.com/jp/pro/wireless_incom/lineup/wd-d10/



準備する

無線機接続ケーブルを接続する

デジタルワイヤレスインターカムシステム WD-D10 シリーズと外部の無線システム（KENWOOD ブランド）で通話する場合は、無線機接続ケーブル WD-RC100 を接続します。

● 適合機種：

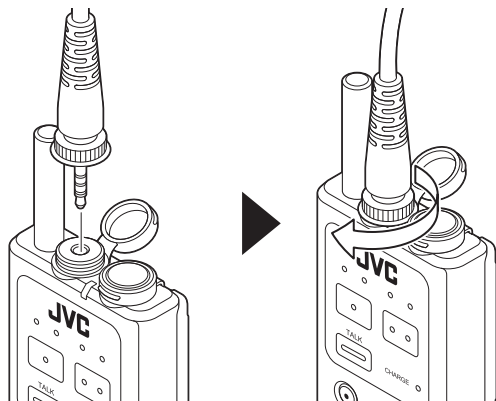
無線機接続ケーブル WD-RC100 に外部接続できる KENWOOD ブランドの簡易無線機は以下のとおりです。

- TCP-D203、TCP-D201、TCP-D503、TCP-D143、TCP-D243

ご注意：

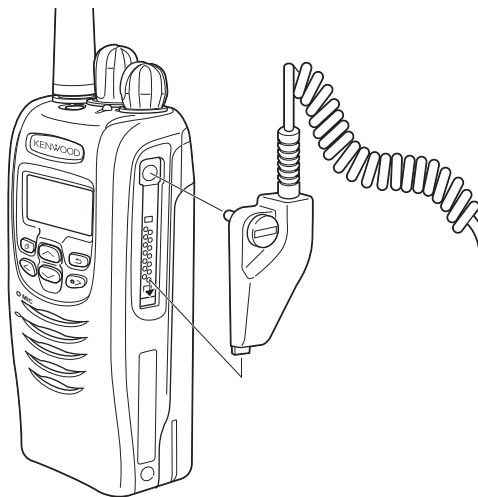
- ベースステーション WD-D10BS と接続するためには、WD-RC100 の他にもう 1 本ケーブルを用意する必要があります。
詳しくは「設置・施工設計編」をご覧ください。
- ポータブルトランシーバーおよびポータブルベースステーションの端末と、外部の無線システムはできるだけ離して使用してください。
近すぎると電波障害の影響で誤動作を起こすことがあります。
- 簡易無線機は、指定の機種以外のものを使用しないでください。
- 外部の無線システムと通話するには、あらかじめ「外部無線連絡」機能を割り当てる必要があります。機能の割り当てについては設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。
- 簡易無線局を運用する場合には、電波法に従い、各地方の総合通信局に免許または登録の申請をおこなう必要があります。
- 免許局簡易無線機の場合には、他の簡易無線局との混信を避けるため、BCL（ビジーチャンネルロックアウト）の設定が必要です。（登録局簡易無線機については、あらかじめキャリアセンス機能が設定されています）
- 簡易無線局同士の通信を確実におこなうために、アナログ方式の場合には CTCSS または DCS の設定を行い、デジタル方式の場合には秘話機能の設定をおこなってください。
- 簡易無線局の申請や各設定の詳細については、お買い上げの販売店にご相談ください。

- ポータブルベースステーション WD-D10PBS との接続
トランシーバーの無線機接続端子に接続プラグを差し込み、キャップを矢印の方向へ回して固定します。



● 外部無線システムの無線機との接続

無線機本体の溝に無線機接続ケーブルのガイドを差し込み、ねじでしっかり固定してください。ねじは手で締め付けることができますが、確実な防水性能を確保するために、締め付け・取りはずしの際はコインドライバーなどを使用してください。



ご注意：

- 簡易無線を使用する際は、無線機を充電台に乗せたまま使用しないでください。必ず充電台から出して使用してください。

メモ：

- ご使用の前に、外部無線機の取扱説明書を必ずお読みください。
- 必ず外部無線機の電源を切ってから接続してください。

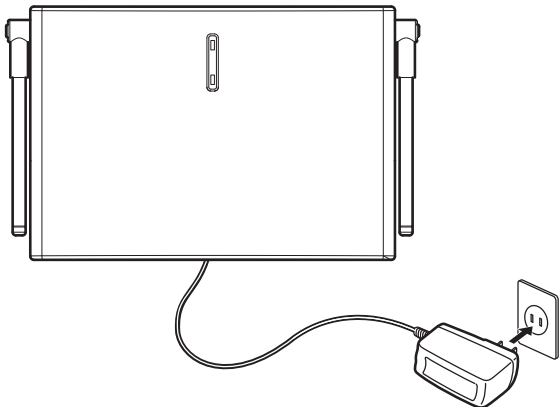
準備する

端末の電源を入れる／切る

WD-D10BS の電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

WD-D10BS の AC アダプターを AC コンセントに差し込むと電源が入ります。



■ 電源を切る

WD-D10BS の AC アダプターを AC コンセントから抜くと電源が切れます。

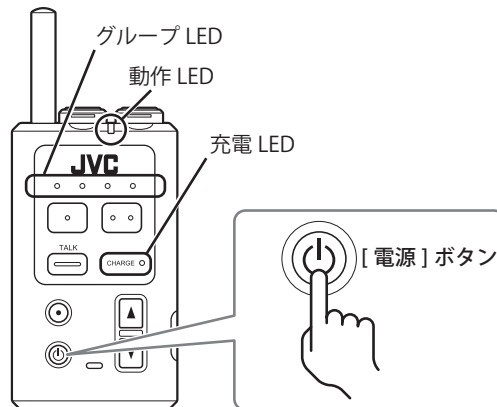
WD-D10PBS / WD-D10TR の電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

1 [電源] ボタンを長押しし、動作 LED (赤)、グループ LED、充電 LED が点灯し消灯したら離す。

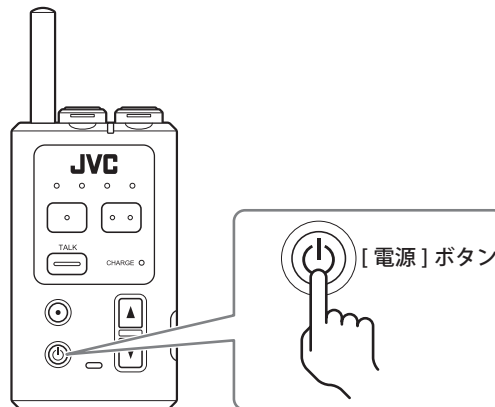
- ・ 親機モードの場合
システムに接続すると動作 LED が橙の点滅になり、接続されたグループのグループ LED が数秒間点灯したあと点滅します。接続グループの音声ガイドが流れ、「グループ通話モード」になります。
- ・ 子機モードの場合
システムに接続すると動作 LED が緑の点滅になり、接続されたグループのグループ LED が数秒間点灯したあと点滅します。接続グループの音声ガイドが流れ、「グループ通話モード」になります。

システムに接続できないときは動作 LED が赤色に点灯します。接続できる場所へ移動してください。



■ 電源を切る

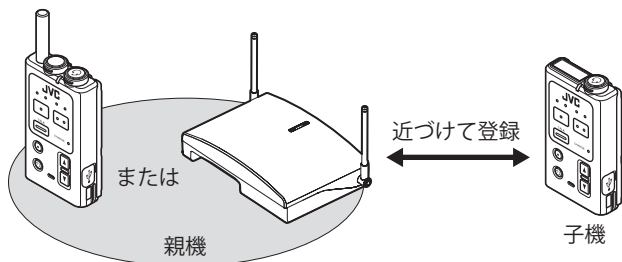
1 動作 LED が消灯するまで [電源] ボタンを長押しする。
点滅状態ではなく、消灯したことをご確認ください。



端末を登録する

親機に子機を登録する

本システムは、親機となるポータブルベースステーション WD-D10PBS またはベースステーション WD-D10BS に、子機となるトランシーバーを登録して使用します。



ご注意：

- 1台の親機に登録できる子機は最大で108台です。最大数登録されている親機に子機を登録しようとすると、登録が失敗する場合があります。

メモ：

- 子機として登録できるのは、ポータブルベースステーション WD-D10PBS (子機モードのみ) またはポータブルトランシーバー WD-D10TR です。
- 登録は1台ずつ順番に行ってください。
- 設定ソフトウェア WD-ZS10 を使って子機を登録することもできます。詳しくは以下のWEBサイトの製品情報ダウンロードより WD-ZS10 ユーザーズガイド (PDF ファイル) をダウンロードしてください。

https://www.jvc.com/jp/pro/wireless_incom/lineup/wd-d10/



■ WD-D10PBS (親機モード) に子機を登録する

メモ：

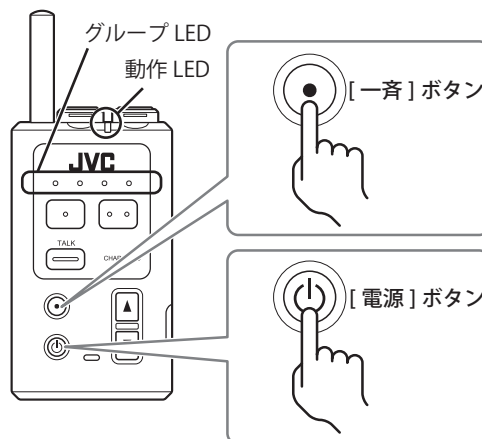
- WD-D10PBS を子機モードに切り換える方法については、「WD-D10PBS を子機モードで起動する」(E26 ページ) をご覧ください。

1 親機および子機の電源が入っている場合は電源を切ります。

動作LEDが消灯するまで[電源]ボタンを長押しして電源を切ってください。

2 親機を登録モードで起動する。

親機の[一斉]ボタンを押しながら[電源]ボタンを長押しして、動作LEDが緑色に点灯しグループLEDがすべて点滅するまで押し続けてください。登録モードで起動します。



3 子機を登録モードで起動する。

子機の[一斉]ボタンを押しながら[電源]ボタンを長押しして、動作LEDが緑色に点灯しグループLEDがすべて点滅するまで押し続けてください。登録モードで起動します。

親機と子機が登録モードになると、自動的に登録が行われます。

– 登録に成功した場合：

子機の動作LEDが緑色に点灯し、グループLEDがすべて点灯します。

– 登録に失敗した場合：

子機の動作LEDが緑色に点灯し、グループLEDがすべて消灯します。再度登録モードで起動して登録しなおしてください。

- ・ 初期設定では、子機はすべて同じグループ(グループA)に登録されます。

4 子機を再起動する。

子機登録に成功したら、子機を再起動します。

登録が完了したら、親機も電源を入れなおして再起動してください。

メモ：

- 登録モードを解除する場合は、[機能2]ボタンを長押しします。
- 何度も登録に失敗する場合は、最大登録数を超過している場合があります。

■ WD-D10BS に子機を登録する

メモ：

- ベースリンク型システムの場合、サブ親機に子機を登録することはできません。メイン親機に対して登録をおこなってください。

1 子機の電源が入っている場合は電源を切る。

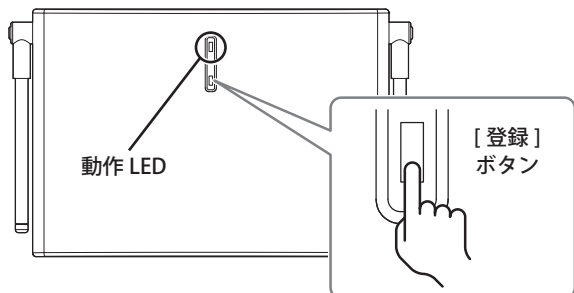
子機の電源を切るには、動作LEDが消灯するまで[電源]ボタンを長押ししてください。

2 WD-D10BSの電源を入れる。

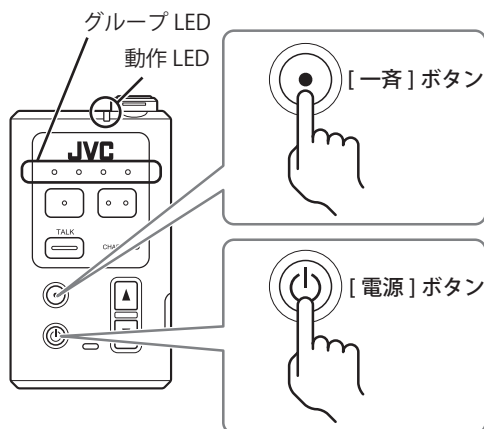
WD-D10BSのACアダプターをACコンセントに差し込むと電源が入ります。

準備する

- 3** [登録] ボタンを動作 LED が緑色に点灯するまで長押しする。
登録モードで起動します。



- 4** 子機を登録モードで起動する。
子機の [一斉] ボタンを押しながら [電源] ボタンを長押しして、動作 LED が緑色に点灯しグループ LED がすべて点滅するまで押し続けてください。
登録モードで起動します。



親機と子機が登録モードになると、自動的に登録が行われます。

- 登録に成功した場合：
子機の動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて点灯します。
- 登録に失敗した場合：
子機の動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて消灯します。再度登録モードで起動して登録しなおしてください。
- ・ 初期設定では、子機はすべて同じグループ（グループ A）に登録されます。

- 5** 子機を再起動する。
子機登録に成功したら、子機を再起動します。
登録が完了したら、WD-D10BS の [登録] ボタンを長押しし登録モードを解除してください。

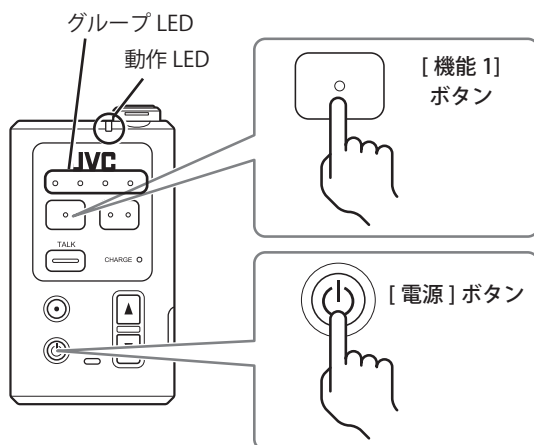
メモ：
● 何度も登録に失敗する場合は、最大登録数を超えている場合があります。

WD-D10PBS を子機モードで起動する

WD-D10PBS は親機としても子機としても使用できます。
子機として使用する場合は、以下の操作を行い、子機モードで起動します。

ご注意：
● WD-D10PBS のモードは、お使いのシステムにあわせてあらかじめ設定されています。必要がない場合は起動モードは変更しないでください。設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

- 1** 電源が入っている場合は動作 LED が消灯するまで [電源] ボタンを長押しして電源を切る。
- 2** [機能 1] ボタンを押しながら、[電源] ボタンを長押しして電源を入れる。
電源の入れ方については「端末の電源を入れる／切る」(P.24 ページ) をご覧ください。
子機モードで起動します。子機モード起動の音声ガイドが流れ、動作 LED が緑色に点滅します。



子機モードと親機モード起動時の動作 LED の表示と音声ガイドは下表のとおりです。

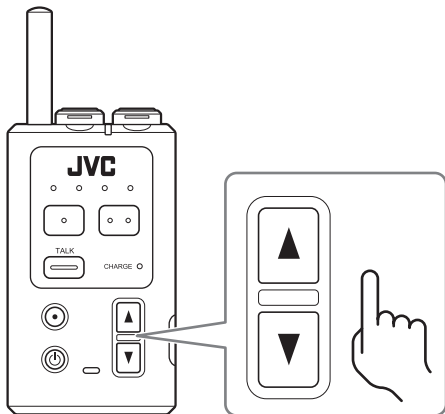
起動モード	LED の表示	モード起動時の音声ガイド
親機モード	橙点滅	ベースステーション
子機モード	緑点滅	トランシーバー

メモ：
● 一度子機モードで起動すると、次回からは電源を入れるだけで子機モードとして起動します。
● 子機モードのときに再度同じ操作をすると、親機モードに変更できます。
● トランシーバーの設定によっては音声ガイドが流れないことがあります。(P.31 ページ)

各種機能を設定する

受話音量レベルを調整する

- [▲] / [▼] ボタンで、適切な音量レベルに調整します。
 [▲] ボタンで、現在の音量レベルを1つ上げます。
 [▼] ボタンで、現在の音量レベルを1つ下げます。



メモ：

- [▲] / [▼] ボタンを長押ししても、音量の連続調整はできません。
- 音量が最大のときに音量を上げようとしたとき、または最小のとき音量を下げようとしたときは、通知音 (“プッ…プッ…プッ…”という音) になります。

■ 一時的に音量レベルを下げる (音量アッテネート)

1 [▼] ボタンを長押しする。

音量レベルが設定値まで下がります。

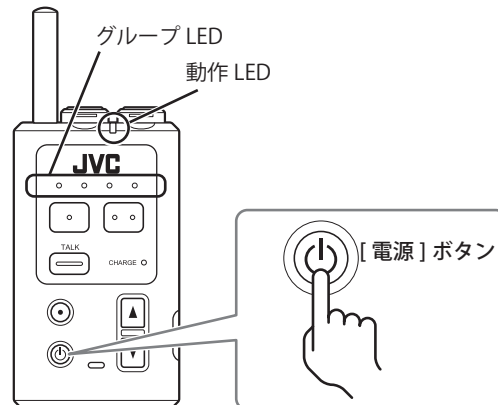
- ・ 音量アッテネート中に [▲] ボタンを押すと、音量アッテネートが解除され、元の音量レベルにもどります。

バッテリー残量を確認する

現在のバッテリー残量を確認することができます。

1 [電源] ボタンを押す。

バッテリー残量に応じて音声ガイドが流れ、充電 LED が 4 秒間バッテリー残量を表示します。



電池残量	充電 LED	音声ガイド
30% 以上	3 回点滅	バッテリー・ハイ
30% 未満～10% 以上	2 回点滅	バッテリー・ミドル
10% 未満	1 回点滅	バッテリー・ロー

メモ：

- バッテリー残量が低下すると、動作 LED が赤く点滅しバッテリー残量警告音 (10 秒間隔で “ピッ、ピッ…” という音) になります。バッテリーを充電してください。
- トランシーバーの設定によっては音声ガイドが流れないことがあります。(☞ 31 ページ)

準備する

設定メニューモードで設定する

トランシーバーを設定メニューモードで起動して、各種機能を設定できます。

1 電源が入っている場合は動作LEDが消灯するまで [電源] ボタンを長押しして電源を切る。

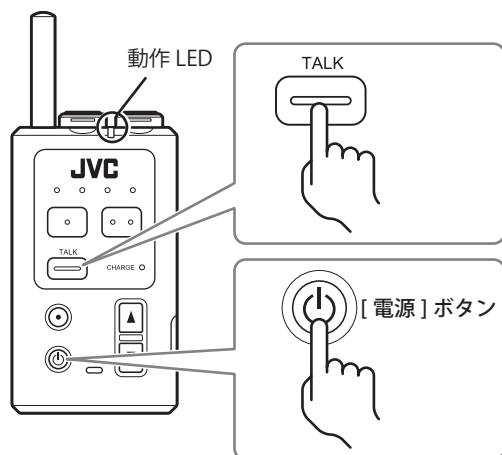
2 [TALK] ボタンを押しながら、[電源] ボタンを長押しして電源を入れる。

WD-D10PBS は動作LEDが橙色に点滅するまで押ししてください。

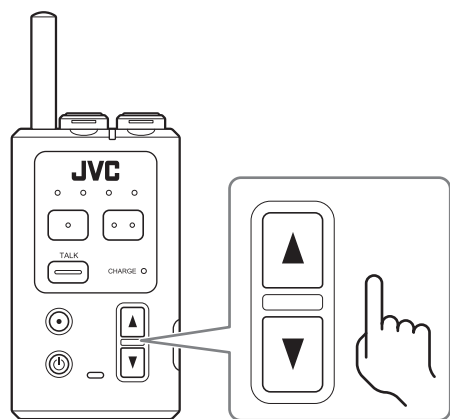
WD-D10TR は動作LEDが緑色に点滅するまで押ししてください。

設定メニューモードが起動します。

設定メニューモード起動の音声ガイドが流れたあと、最初の設定項目が音声ガイドされます。



3 [▲]、[▼] ボタンを押して設定したい項目を選ぶ。項目を切り換えるごとに、項目名が音声ガイドされます。



4 [TALK] ボタンを押して設定項目を決定する。

5 [▲]、[▼] ボタンを押して設定値を選ぶ。

設定値を切り換えるごとに、設定内容が音声ガイドされます。設定項目の選択にもどるには、[機能1] ボタンを押します。

6 [TALK] ボタンを押して設定値を決定する。

7 [機能2] ボタンを長押しする。

設定を保存します。トランシーバーが再起動して、「グループ通話モード」にもどります。

● 設定メニューモードの設定項目

*：初期設定値

項目 (音声ガイド)	設定値	内容
ベース選択 (ベースセレクト)	オート* / ベース1 / ベース2 / ベース3 / ベース4 / ベース5 / ベース6	接続する親機 (ポータブルベースステーションまたはベースステーション) を切り換えます。 「オート」を選択すると、自動的に接続するベースステーションを選択します。
トークボタン動作 (トークセッティング)	トーク* / ホールド / ボックス (VOX)	[TALK] ボタンの動作を切り換えます。 ・ トーク： トランシーバー本体またはコントロールマイクロホンの [TALK] ボタンを押しているあいだ、通話することができます。 ・ ホールド： トランシーバー本体またはコントロールマイクロホンの [TALK] ボタンを一度押すと通話状態になり、もう一度押すと通話を終了します。「ホールド自動オフ時間」が設定されている場合は、設定時間が経過すると自動的に通話を終了します。 ・ VOX： 音声に反応して自動的にマイク ON の状態になります。[TALK] ボタンを押すことなく、ハンズフリー通話ができます。
VOX 感度調整 (ボックスレベル)	レベル1～5 (3*)	トークボタン動作を「VOX」にしたときの感度を設定します。
マイクゲイン (マイクゲイン)	レベル1～5 (3*)	マイクの入力感度を調整します。

準備する

キーロックする／解除する

トランシーバーの機能ボタンや一斉ボタンが動作しないようにロックします。

ご注意：

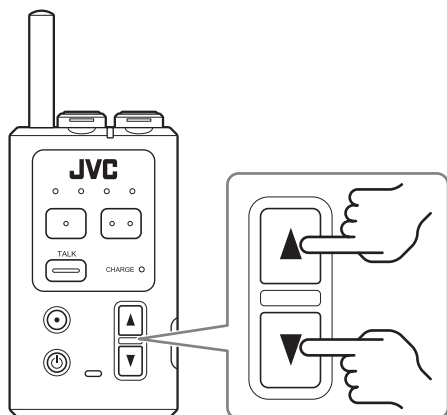
- この機能は初期設定では実行できません。実行するには、設定ソフトウェア WD-ZS10 で設定が必要です。設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

■ キーロックする

キーロック中にボタン操作をした場合、操作は無効になります。通知音、音声ガイドもなりません。

- 1 [▲] ボタンを押しながら、[▼] ボタンを長押しする。

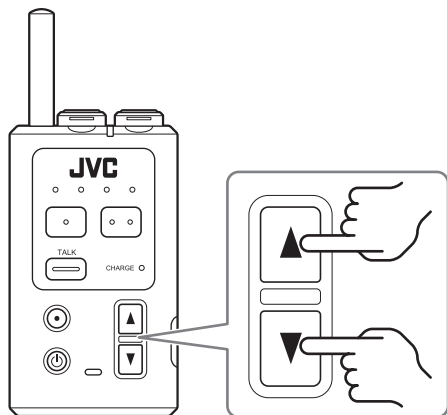
キーロック音（“プーッ”という音）がなり、キーがロックされます。



■ キーロックを解除する

- 1 キーロック中に [▲] ボタンを押しながら、[▼] ボタンを長押しする。

キーロック解除音（“プーッ”という音）がなり、キーロックが解除されます。



トークボタン動作設定を変更する

トークボタン動作設定を「トーク」、「ホールド」または「VOX」のいずれかに変更できます。

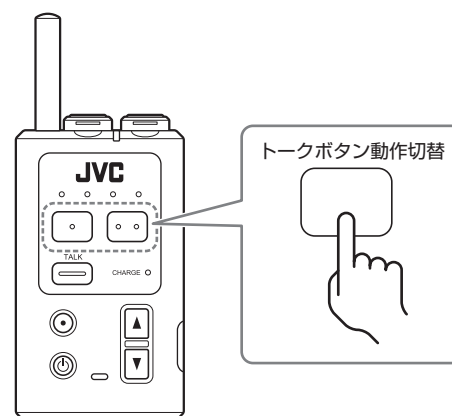
ご注意：

- [トーク動作切替] ボタンは初期設定では割り当てられていません。任意の機能ボタンに機能を割り当ててお使いください。設定については WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

メモ：

- トークボタン動作設定は、「設定メニューモード」で変更できます。詳しくは「各種機能を設定する（設定メニューモード）」（[P.28](#) ページ）をご覧ください。また、WD-ZS10 を使用してトーク設定を変更することもできます。

- 1 [トークボタン動作切替] ボタンを押す。設定されているトークボタン動作で機能します。変更後のトークボタン設定が音声ガイドされます。



再度 [トークボタン動作切替] ボタンを押すと、元のトークボタン動作にもどります。

準備する

強制再接続をおこなう(子機モードのみ)

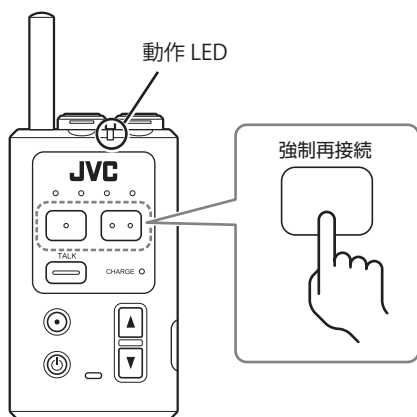
電波状態に関係なく再接続を行います。

ご注意：

- [強制再接続] ボタンは初期設定では割り当てられていません。任意の機能ボタンに機能を割り当ててお使いください。
設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 [強制再接続] ボタンを押す。

現在、接続している親機（ポータブルベースステーションまたはベースステーション）から切断します。動作 LED が赤色に点灯します。



親機に再接続すると接続グループの音声ガイドが流れ、動作 LED が緑色に点滅します。

メモ：

- トランシーバーの設定によっては音声ガイドが流れないことがあります。(P.31 ページ)

設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用してファームウェアを更新する

親機および子機のファームウェアの更新を行います。更新方法については WD-ZS10 のユーザーズガイドをご覧ください。

メモ：

- WD-ZS10 ユーザーズガイド (PDF ファイル) は以下の WEB サイトの製品情報ダウンロードよりダウンロードしてください。
https://www.jvc.com/jp/pro/wireless_incom/lineup/wd-d10/



WD-ZS10 は以下の WEB サイトよりダウンロードしてください。

https://www3.jvckenwood.com/pro/soft_dl/wd-d10/

準備する

トランシーバー使用中のお知らせ音について

トランシーバーは、使用しているモードや状況により、イヤホンからお知らせ音が聞こえます。各お知らせ音の名前および内容は、下表をご覧ください。

お知らせ音	名前	状況
ブツブツ	無効音	ボタン操作が無効のとき。トランシーバーの動作モードが変わらなかったとき。すでにそのモードになっているとき。
ポツ	キー操作音	ボタンを押したとき。
プーツ、…	圏外お知らせ音	電波の弱いところに移動したり、ベースステーションに空きチャンネルがないときに [TALK] ボタンを押したとき。
ピッピッ、… (10 秒間隔)	電池残量警告音	トランシーバーのバッテリー残量が少なくなってきたとき。速やかに充電してください。
ピッピッピッ、… (5 秒間隔)	電池残量警告通知音	
ピッピッ、…	端末異常音	バッテリーに異常があるときなど。
ブツ	リスニングトーク切換音	リスニングモード子機が送信をおこなうモードに切り換わったとき。
ブツ…ブツ…	リスニングトーク移行音	リスニングモード子機が通話の送信をおこなうモードに切り換わっているとき。
ブツ	音量変更音	音量を変更したとき
ブツ…ブツ…ブツ…	音量最大通知音	音量が最大値のときに、さらに音量を上げようとしたとき。
ブツ…ブツ…ブツ…	音量最小通知音	音量が最小値のときに、さらに音量を下げようとしたとき。
ピポーピポー	一斉開始音	一斉通話を開始したとき。
ブツ	モード切換音	グループ切り換えや一斉通話などで通話モードが切り換わったとき。一斉通話や放送状態からグループ通話にもどったとき。
プーツ	キーロック音	キーロックを実行したとき。
プーツ	キーロック解除音	キーロックが解除されたとき。
プーツ	設定保存完了音	設定メニューモードで設定した内容を保存したとき。
ピポー	外部機器制御音	外部機器制御を開始したとき。
プーツ	終了音	一斉通話や放送などが終了したとき。
ピーツ	ホールド開始お知らせ音	トークボタンの動作が「ホールド」のとき、トークボタンを押して通話の送信を開始したとき。
プーツ	ホールド終了お知らせ音	トークボタンの動作が「ホールド」のとき、トークボタンを押して通話の送信を終了したとき。

※ 初期設定ではお知らせ音（トーン鳴動）がオンになっていますが、システムの設定変更によりお知らせ音をオフにすることができます。設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

準備する

音声ガイドについて

ポータブルベースステーション WD-D10PBS およびポータブルトランシーバー WD-D10TR は、操作をおこなうと音声ガイドが流れます。

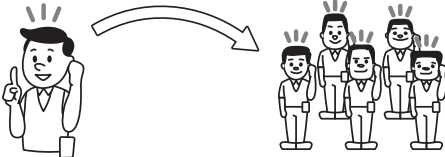
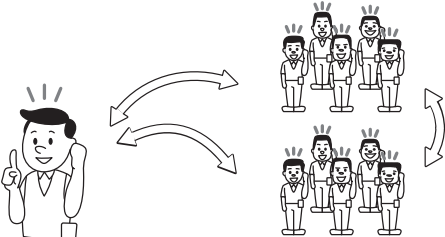
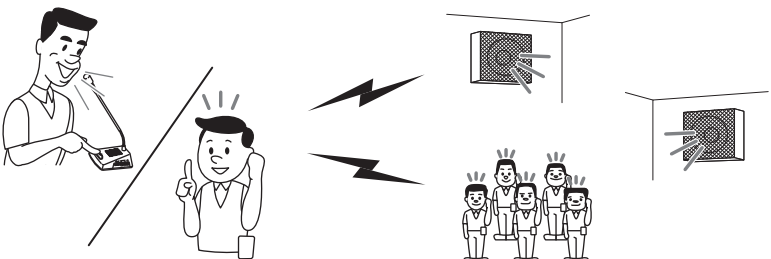
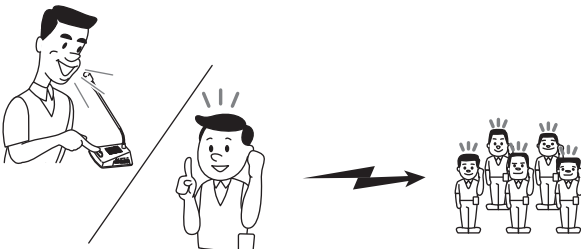
● 音声ガイド一覧

音声ガイド		説明
内容	音声	
接続グループ*	グループ (名前)	子機が親機に接続したとき、または [グループ切替] ボタンを押してグループが切り換わったときの接続グループ名。
リスニングモード起動*	リスニングモード	子機がリスニングモードで起動したとき。
子機登録モード*	トウロク	ポータブルベースステーション WD-D10PBS またはポータブルトランシーバー WD-D10TR が子機登録モードで起動したとき。
子機モード起動*	トランシーバー	ポータブルベースステーション WD-D10PBS が子機モードで起動したとき。
親機モード起動*	ベースステーション	ポータブルベースステーション WD-D10PBS が親機モードで起動したとき。
電池残量「高」*	バッテリー・ハイ	[電源] ボタンを押したときに、電池残量が 30%以上のとき。
電池残量「中」*	バッテリー・ミドル	[電源] ボタンを押したときに、電池残量が 10%以上、30%未満のとき。
電池残量「低」*	バッテリー・ロー	[電源] ボタンを押したときに、電池残量が 10%未満のとき。
エラー通知*	エラー (番号)	エラーが発生したとき。
設定メニューモード起動	メニュー	ポータブルベースステーション WD-D10PBS またはポータブルトランシーバー WD-D10TR を設定メニューモードで起動したとき。
ベース選択	ベースセレクト	設定メニューモードでの設定項目名。
	オート/ ベース 1 / ベース 2 / ベース 3 / ベース 4 / ベース 5 / ベース 6	設定メニューモード「ベースセレクト」で選択しているベース設定の内容。
トークボタン動作	トークセッティング	設定メニューモードでの設定項目名。
	トーク/ホールド/ ボックス	設定メニューモード「トークセッティング」で選択しているトークボタン動作。 または [トーク動作切替] ボタンで切り換えたトークボタン動作。
VOX 感度調整	ボックスレベル	設定メニューモードでの設定項目名。
	レベル 1 / レベル 2 / レベル 3 / レベル 4 / レベル 5	設定メニューモード「ボックスレベル」で選択しているレベル。
マイクゲイン	マイクゲイン	設定メニューモードでの設定項目名。
	レベル 1 / レベル 2 / レベル 3 / レベル 4 / レベル 5	設定メニューモード「マイクゲイン」で選択しているレベル。

※ (*) マークのついている音声ガイドは初期設定ではオンになっていますが、システムの設定変更により音声ガイドをオフにすることができます。設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

動作モードについて

通話には、以下の動作モードがあります。

動作モードの名前	動作状態
グループ通話 (☞ 34 ページ) グループ切替 (☞ 35 ページ)	インカムとしての動作モードです。通話の内容は同一グループ内すべての人に聞こえます。 
一斉通話 (☞ 36 ページ)	使用しているすべてのグループ全員と通話するときのモードです。通話の内容はすべてのグループの全員に聞こえます。 
外部音声入出力 外部接続機器 (☞ 36 ページ) 放送 (☞ 37 ページ)	ベースステーション WD-D10BS の外部音声入出力端子を使用して、外部の音声をトランシーバーから出力したり、グループ通話の内容を外部に出力することができます。 また、ベースステーション WD-D10BS の外部機器制御端子に接続した機器をトランシーバーから起動させることができます。 
リスニング (☞ 43 ページ) (WD-D10TR のみ)	ポータブルトランシーバー WD-D10TR を通話の受信専用子機として使用するモードです。少ないベースステーション (親機) でより多くの子機を運用することができます。特定の人のみ指示や返事を行い、他の人はその内容を聞くことだけが多い場合などに有効です。  <p>ご注意： _____</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リスニングモードは使用できる環境や子機の動作に制限があります。詳しくは、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

用語の紹介

- ・ インカム： スタッフ間のコミュニケーションを円滑におこなうために使用する同時双方向通信できる通信装置のことです。
- ・ グループ： 本システムをご使用になる方々の分けです。担当業務などによって分けられます。

通話をする

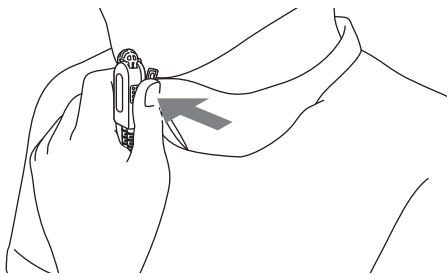
通話をする
(グループ通話モード)

自分の属しているグループ内の全員と通話ができます。

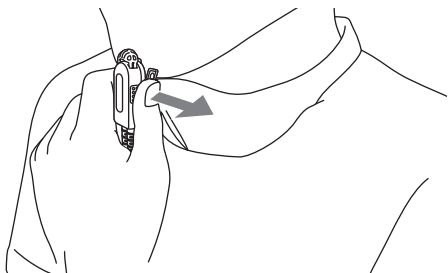
メモ： _____

- トランシーバーの電源を入れると、「グループ通話モード」になります。
- グループ分けの変更については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

- 1 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの[TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



- 2 話し終わったら、[TALK] ボタンを離す。



■ トークボタン動作設定時の操作について

[TALK] ボタンを使用した通話の方法には、「トーク」、「ホールド」、「VOX」があります。これらは設定によって異なります。

本書では、「トーク」設定での操作方法を記載しています。

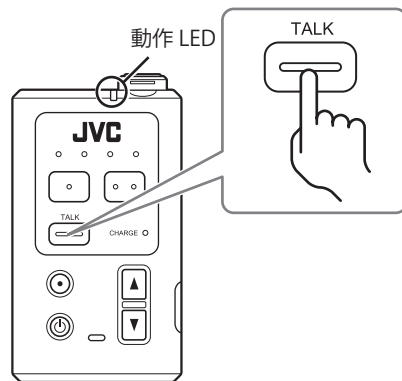
- トーク： トランシーバー本体またはコントロールマイクロホンの [TALK] ボタンを押しているあいだ、通話できます。
- ホールド： トランシーバー本体またはコントロールマイクロホンの [TALK] ボタンを一度押すと通話状態になり、もう一度押すと通話を終了します。「ホールド自動オフ時間」が設定されている場合は、設定時間が経過すると自動的に通話を終了します。
- VOX： 音声に反応して自動的にマイク ON の状態になります。[TALK] ボタンを押すことなく、ハンズフリー通話ができます。

メモ： _____

- 初期設定では「トーク」となっています。
- トーク、ホールド、VOX の設定は、「設定メニューモード」で変更できます。詳しくは「各種機能を設定する（設定メニューモード）」(P.28 ページ) をご覧ください。また、WD-ZS10 を使用して設定することもできます。

圏外に移動したとき

子機が親機接続エリアの圏外に移動したときは、動作 LED が赤色に点灯し、トークボタンを押すと圏外お知らせ音（「プーツ、プーツ、…」という音）がなります。親機に接続できる場所に移動してください。



- 親機に再接続したとき

動作 LED が緑色に点滅します。

メモ： _____

- 圏外に移動したときのお知らせ音（プーツ、…）は、システム設定の「圏外お知らせ音」の設定によって異なります。
 - 「圏外時常に鳴動しない」の場合：
圏外に移動しても、お知らせ音はなりません。
 - 「圏外時常に鳴動」の場合：
圏外に移動してから再び親機に接続できるまでお知らせ音がなり続けます。
 - 「圏外時トークボタンで鳴動」の場合：
圏外に移動し、トークボタンを押しているあいだ、お知らせ音がなります。
- 設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

グループを切り換える

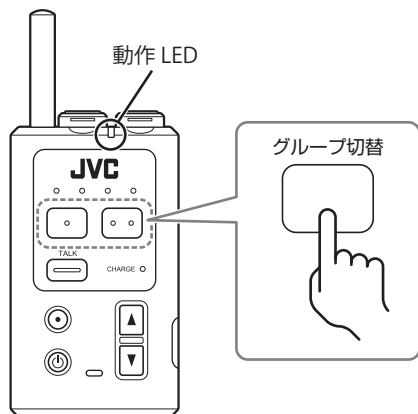
切り換えた先のグループと通話ができます。

ご注意：

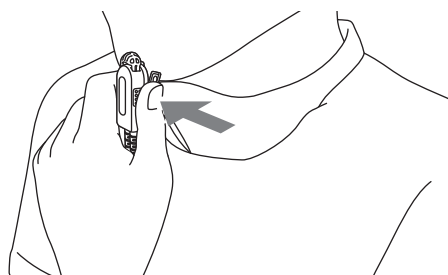
- あらかじめシステムに設定されたグループに切り換えます。グループの設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- [グループ切替] ボタンは初期設定では割り当てられていません。任意の機能ボタンに機能を割り当ててお使いください。
設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 [グループ切替] ボタンを押す。

[グループ切替] ボタンを押すたびに、A → B → C → D → A の順に 4 つのグループが切り換わります。グループが切り換わると、該当するグループ LED が数秒間点灯したあと点滅します。また、切り換わった先のグループが音声ガイドされます。



2 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



メモ：

- グループを切り換えたあとに電源を切り、再度電源を入れたときに接続するグループは、トランシーバーの設定によって異なります。
 - 「電源起動時の所属グループ」が「レジューム」の場合：
電源を切る直前に所属しているグループになります。
 - 「電源起動時の所属グループ」でグループを指定した場合：
電源を切る直前に所属しているグループに関係なく、指定したグループになります。
- グループ分け、電源起動時の所属グループについては WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。
- トランシーバーの設定によっては音声ガイドが流れないことがあります。(☞ 31 ページ)

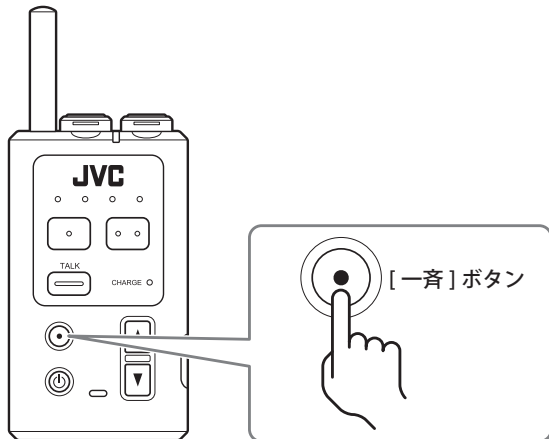
通話をする

すべてのグループと通話する
(一斉通話モード)

トランシーバーを使用しているすべてのグループ全員と通話します。

1 [一斉] ボタンを長押しする。

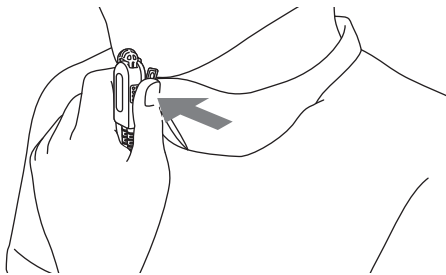
すべてのグループ全員のトランシーバーで一斉開始の通知音 (“ピポーピポー” という音) がなり、全グループ通話の送受話状態になります。



メモ:

- 他に一斉通話モードを起動したトランシーバーがある場合は、無効音 (“プップ” という音) がなり、一斉通話モードになりません。

2 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



3 話し終わったら、[一斉] ボタンを再度長押しする。終了音 (“プー” という音) がなり、自分のグループの「グループ通話モード」にもどります。

- ・「グループ通話モード」にもどる操作は手順1で [一斉] ボタンを押した人のみできます。
- ・「グループ通話モード」にもどると、グループ全員が自動的に「グループ通話モード」にもどります。

メモ:

- 以下の場合も一斉通話が解除されます。
 - 設定された一斉解除時間を経過したとき
 - 一斉通話を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったとき

外部機器を利用する

外部音源を起動するなどの外部機器制御をすることができます。

ご注意:

- あらかじめシステムに設定された外部機器の制御を行います。機器の設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- [外部機器制御] ボタンは初期設定では割り当てられていません。任意の機能ボタンに機能を割り当ててお使いください。設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

メモ:

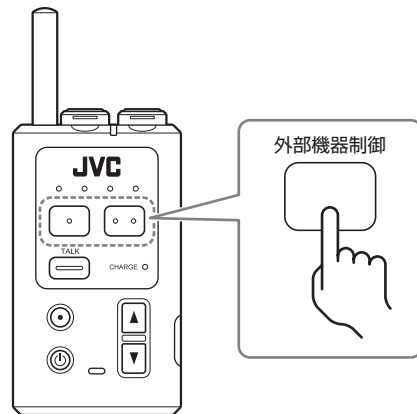
- 外部機器制御端子の接続方法に関しては、以下のWEBサイトの製品情報ダウンロードよりWD-D10シリーズの取扱説明書(設置・施工設計編)(PDFファイル)をダウンロードしてください。

https://www.jvc.com/jp/pro/wireless_incom/lineup/wd-d10/



1 [外部機器制御] ボタンを押す。

外部機器制御音 (“ピポー” という音) がなり、設定された外部機器が起動します。



外部機器の制御中でもグループ通話ができます。

外部機器制御を終了するには、再度 [外部機器制御] ボタンを押します。

メモ:

- 他のトランシーバーが外部機器制御中のときは、無効音 (“プップ” という音) がなり、外部機器制御は実行できません。
- 外部機器制御を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったときに、外部機器制御は解除されます。

放送する

外部機器を利用して、構内やフロアなどに直接放送します。

放送機能について

放送するには、以下の方法があります。

- [放送] ボタンを押して放送する
[放送] ボタンで放送機能の起動・終了をおこない、[TALK] ボタンで話します。
- [TALK] ボタンを押して放送する (P.38 ページ)
[TALK] ボタンの操作に放送機能の起動・終了を連動させ、放送します。
- [放送(トーク連動)] ボタンを押して放送する (P.38 ページ)
[放送(トーク連動)] ボタンで放送機能の起動・終了をおこない、その操作に通話を連動させ、放送します。

ご注意：

- [放送]、[放送(トーク連動)] の機能は初期設定で各機能ボタンに割り当てられていません。任意の機能ボタンに機能を割り当ててお使いください。
[TALK] ボタン動作の設定や、任意の機能ボタンへの機能の割り当て設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。
- 放送モード機能を使用するには、外部機器の接続およびシステムの設定が必要です。お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

メモ：

- 以下の場合は無効音(“ブッブ”という音)となり、放送機能を起動することができません。
 - 他のトランシーバーが同じ放送グループに放送中のとき
 - 放送を起動したトランシーバーが他の放送グループに放送中であるとき
 - 一斉通話中のトランシーバーがあるとき
- 外部機器制御端子の接続方法に関しては、以下のWEBサイトの製品情報ダウンロードよりWD-D10シリーズの取扱説明書(設置・施工設計編)(PDFファイル)をダウンロードしてください。

https://www.jvc.com/jp/pro/wireless_incom/lineup/wd-d10/

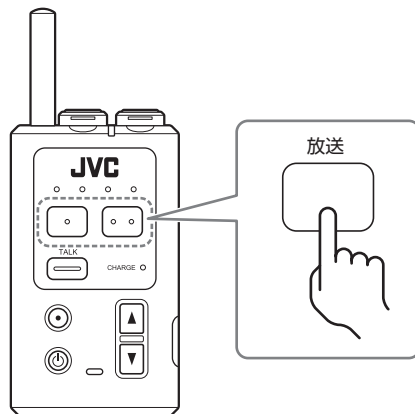


[放送] ボタンを押して放送する

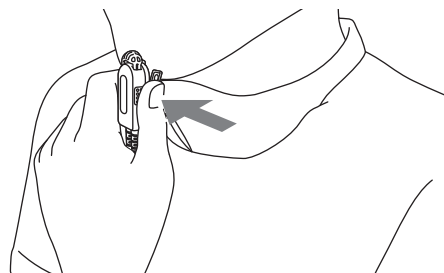
任意の機能ボタンに放送機能を割り当てると[放送] ボタンを押して放送機能を起動することができます。

1 [放送] ボタンを押す。

放送機能が起動し、トランシーバーからモード切換音(“ブッ”という音)がなります。



2 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの[TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



話し終わったら、[TALK] ボタンを離します。

3 放送を終了するには[放送] ボタンを押す。

モード切換音(“ブッ”という音)がなり、自分のグループの「グループ通話モード」にもどります。

メモ：

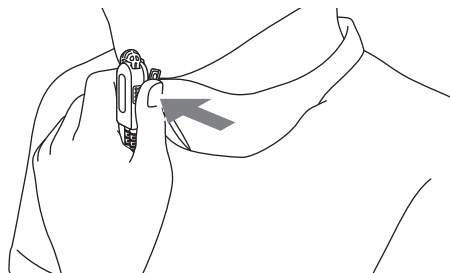
- 以下の場合も放送機能が解除されます。
 - 設定された放送解除時間を経過したとき
 - 放送を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったとき
 - 一斉通話が開始されたとき

通話をする

[TALK] ボタンを押して放送する

トークボタン動作の設定で、機能連動を「放送」、開始連動を「連動する」に設定すると、放送機能の起動から放送の開始までを [TALK] ボタンの一回の操作でおこなうことができます。

- 1 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押す。
放送機能が起動し、トランシーバーからモード切換音 (“ブツ” という音) になります。
モード切換音がなってから放送を開始してください。



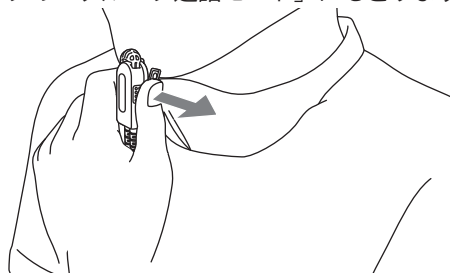
メモ： _____

- 開始連動を「連動しない」に設定した場合は、「[放送] ボタンを押して放送する」と同様の操作となります。任意の機能ボタンに放送機能を割り当てて、放送機能を起動してください

- 2 コントロールマイクロホンに向かって [TALK] ボタンを押しながら話す。

[TALK] ボタンを押している間は放送が継続されます。

- 3 放送を終了するには、
トークボタン動作の設定で、終了連動を [連動する] にした場合は、[TALK] ボタンを離すことで放送機能も終了します。
モード切換音 (“ブツ” という音) になり、自分のグループの「グループ通話モード」にもどります



で注意： _____

- 終了連動を [連動しない] にした場合は、「[放送] ボタンを押して放送する」と同様の操作となります。任意の機能ボタンに放送機能を割り当てて、放送を終了してください。
- この起動方法は、[TALK] ボタンを押すと放送が開始するため、インカムのグループ通話をした場合には適しません。

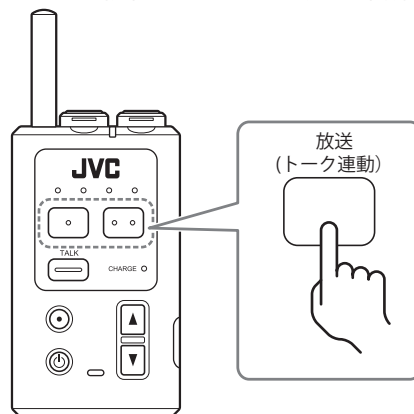
メモ： _____

- 以下の場合も放送機能が解除されます。
 - 設定された放送解除時間を経過したとき
 - 放送を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったとき
 - 一斉通話が開始されたとき

[放送(トーク連動)] ボタンを押して放送する

任意の機能ボタンに放送(トーク連動) 機能を割り当てると、放送機能の起動から放送の開始までを [放送(トーク連動)] ボタンの一回の操作でおこなうことができます。同様に放送の終了も一回の操作でできます。

- 1 [放送(トーク連動)] ボタンを押す。
放送機能が起動し、トランシーバーからモード切換音 (“ブツ” という音) になり、同時に通話状態になります。
モード切換音がなってから放送を開始してください。



- 2 コントロールマイクロホンに向かって [放送(トーク連動)] ボタンを押しながら話す。

[放送(トーク連動)] ボタンを押している間は放送が継続されます。

- 3 放送を終了するには、[放送(トーク連動)] ボタンを離す。

モード切換音 (“ブツ” という音) になり、自分のグループの「グループ通話モード」にもどります。

メモ： _____

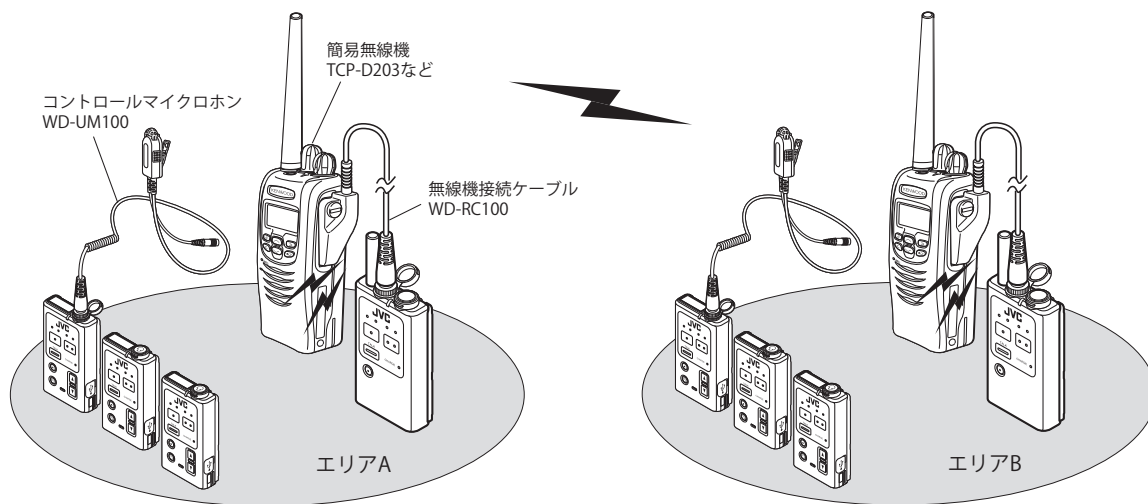
- 以下の場合も放送機能が解除されます。
 - 設定された放送解除時間を経過したとき
 - 放送を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったとき
 - 一斉通話が開始されたとき

外部無線連絡をおこなう

本システムではポータブルトランシーバー WD-D10TR およびポータブルベースステーション WD-D10PBS と無線機接続ケーブル WD-RC100 を使い指定の簡易無線機を接続することで、グループ通話の音声を外部の無線システムのグループに送話できます。

外部無線連絡の概要

- 外部無線連絡で外部接続できる簡易無線機は以下の機種となります。
対象無線機：ケンウッド製簡易無線機 TCP-D203, D201, D503, D143CR, D243CR
- 送信側エリア内のミックスされた通話内容を簡易無線機を通じて受信側エリアの端末で聞くことができます。ただし、交互通信となるので送信中は受信側エリア内の通話内容を送信側エリアで聞くことはできません。
- 各エリア内での同時通話はできません。



ご注意：

- 外部無線連絡をおこなうためには、無線機接続ケーブル WD-RC100 の接続 (23 ページ) とシステムの設定変更が必要です。システムの設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- ポータブルトランシーバーおよびポータブルベースステーションの端末と、外部の無線システムはできるだけ離して使用してください。近すぎると電波障害の影響で誤動作を起こすことがあります。
- WD-D10PBS を無線機に接続中バックグラウンドノイズ機能が「ON」に設定されているときは、無線機のボリュームつまみの位置を 3 時くらいまでまわしてください。まわし方が不足しているとミュート状態から復帰せず音声が出力されません。
- WD-D10PBS を充電台に装着し親機での運用と外部無線連絡機能を同時に使用することはできません。外部無線連絡機能が優先されます。

通話をする

外部無線連絡機能について

外部無線連絡をおこなうには、以下の方法があります。

- [外部無線連絡] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう
[外部無線連絡] ボタンで外部無線連絡機能の起動・終了をおこない、[TALK] ボタンで話します。
- [TALK] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう (P.41 ページ)
[TALK] ボタンの操作に外部無線連絡機能の起動・終了を連動させ、外部無線連絡をおこないます。
- [外部無線連絡(トーク連動)] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう (P.41 ページ)
[外部無線連絡(トーク連動)] ボタンで外部無線連絡機能の起動・終了をおこない、その操作に通話を連動させ、外部無線連絡をおこないます。

ご注意：

- [外部無線連絡]、[外部無線連絡(トーク連動)] ボタンは初期設定では割り当てられていません。任意の機能ボタンに機能を割り当ててお使いください。[TALK] ボタン動作の設定や、任意の機能ボタンへの機能の割り当て設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

メモ：

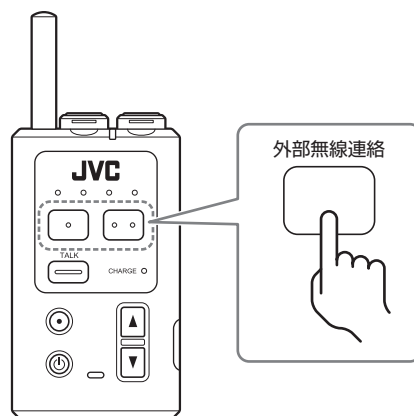
- 以下の場合は無効音("プップ"という音)となり、外部無線連絡機能を起動することができません。
 - 他のトランシーバーが外部無線連絡をおこなっているとき
 - 放送を起動したトランシーバーが他の放送グループに放送中であるとき
 - 一斉通話中のトランシーバーがあるとき

[外部無線連絡] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう

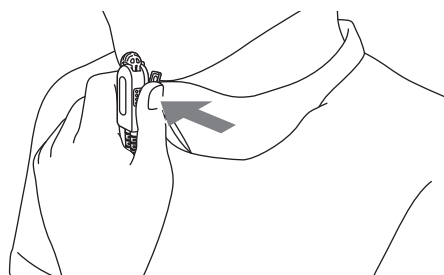
任意の機能ボタンに外部無線連絡機能を割り当てると [外部無線連絡] ボタンを押して外部無線連絡機能を起動することができます。

1 [外部無線連絡] ボタンを押す。

外部無線連絡機能が起動し、トランシーバーからモード切換音("プッ"という音)がなります。



2 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



話し終わったら、[TALK] ボタンを離します。

3 外部無線連絡を終了するには、[外部無線連絡] ボタンを押す。

モード切換音("プッ"という音)がなり、自分のグループの「グループ通話モード」にもどります。

メモ：

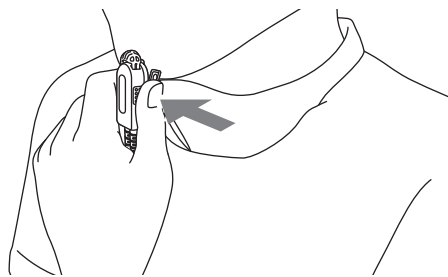
- 以下の場合も外部無線連絡機能が解除されます。
 - 設定された外部無線連絡解除時間を経過したとき
 - 放送を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったとき
 - 一斉通話が開始されたとき

通話をする

[TALK] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう

トークボタン動作の設定で、機能連動を「外部無線連絡」、開始連動を「連動する」に設定すると、外部無線連絡機能の起動から通話の開始までを [TALK] ボタンの 1 回の操作でおこなうことができます。

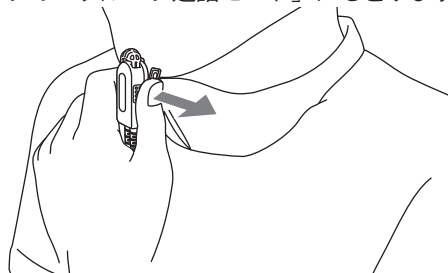
- 1 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押す。
外部無線連絡機能が起動し、トランシーバーからモード切換音 (“プッ” という音) がなります。
モード切換音がなってから通話を開始してください。



メモ：

- 開始連動を「連動しない」に設定した場合は、「[外部無線連絡] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう」と同様の操作となります。任意の機能ボタンに外部無線連絡機能を割り当ててください。

- 2 コントロールマイクロホンに向かって話す。
[TALK] ボタンを押している間は放送が継続されます。
- 3 外部無線連絡を終了するには、
トークボタン動作の設定で、終了連動を [連動する] にした場合は、[TALK] ボタンを離すことで外部無線連絡も終了します。
モード切換音 (“プッ” という音) がなり、自分のグループの「グループ通話モード」にもどります。



ご注意：

- 終了連動を [連動しない] にした場合は、「[外部無線連絡] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう」と同様の操作となります。任意の機能ボタンに外部無線連絡機能を割り当てて、外部無線連絡を終了してください。
- この起動方法は、[TALK] ボタンを押すと外部無線連絡が開始するため、外部の無線システムに対し常に通話したくない場合には適しません。

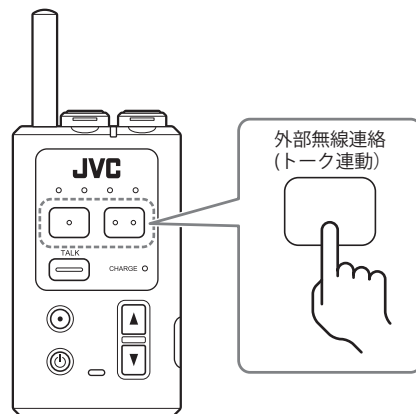
メモ：

- 以下の場合も外部無線連絡機能が解除されます。
 - 設定された外部無線連絡解除時間を経過したとき
 - 放送を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったとき
 - 一斉通話が開始されたとき

[外部無線連絡(トーク連動)] ボタンを押して外部無線連絡をおこなう

任意の機能ボタンに外部無線連絡(トーク連動)機能を割り当てると、外部無線連絡機能の起動から通話の開始までを [外部無線連絡(トーク連動)] ボタンの 1 回の操作でおこなうことができます。同様に外部無線連絡の終了も 1 回の操作でできます。

- 1 [外部無線連絡(トーク連動)] ボタンを押す。
外部無線連絡機能が起動し、トランシーバーからモード切換音 (“プッ” という音) がなります。
モード切換音がなってから通話を開始してください。



- 2 コントロールマイクロホンに向かって [外部無線連絡(トーク連動)] ボタンを押しながら話す。
[外部無線連絡(トーク連動)] ボタンを押している間は外部無線連絡が継続されます。
- 3 外部無線連絡を終了するには、[外部無線連絡(トーク連動)] ボタンを離す。
モード切換音 (“プッ” という音) がなり、自分のグループの「グループ通話モード」にもどります。

メモ：

- 以下の場合も外部無線連絡機能が解除されます。
 - 設定された外部無線連絡解除時間を経過したとき
 - 放送を開始したトランシーバーの電源が切れたとき、または圏外になったとき
 - 一斉通話が開始されたとき

通話をする

高音質モードで通話する

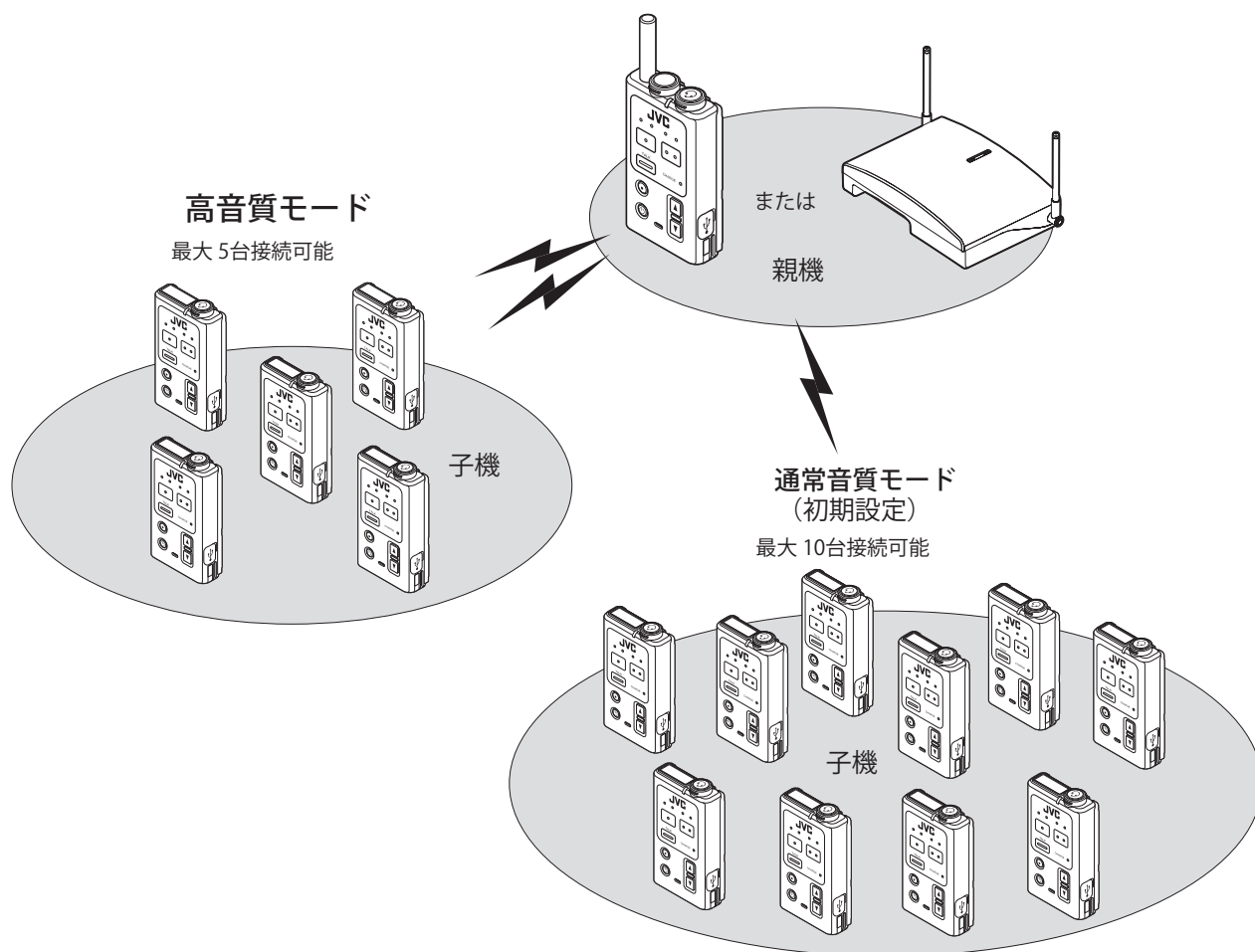
本システムには、端末間の通話の音質モードを設定することができます。システム設定の「音質モード」で「高音質」を選択すると、「通常音質」に対して複数の通信を束ねて通信の帯域幅を拡大することで高音域の音も伝送でき、「通常音質」よりも明瞭でより聞き取りやすい音質での通話が可能となります。

ご注意：

- 高音質モードを使用するためには、端末のシステム設定が必要です。設定変更は設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- 音質モードはシステムごとの設定になります。端末ごとに音質の選択はできません。
- 高音質モードを使用する場合、外部接続使用等で使用可能なグループは1グループになります。

高音質モードの概要

- ・ 高音質モードに設定していると構内やフロア内などに端末を使って直接放送するとき有効です。
- ・ リスニングモードで使用の際に、親機を高音質モードに設定することで明瞭な音声にて情報を共有することができます。
- ・ 複数の通信を束ねるため、子機の最大同時接続台数が通常音質モードの半分の台数となります。また、グループ数も A、B の2グループとなります。用途に合わせてお使いください。
- ・ 使用するアクセサリ（イヤホンマイク、スピーカーなど）の性能によっては音質向上の効果が出にくい場合があります。



リスニングモードを使う

リスニングモードについて

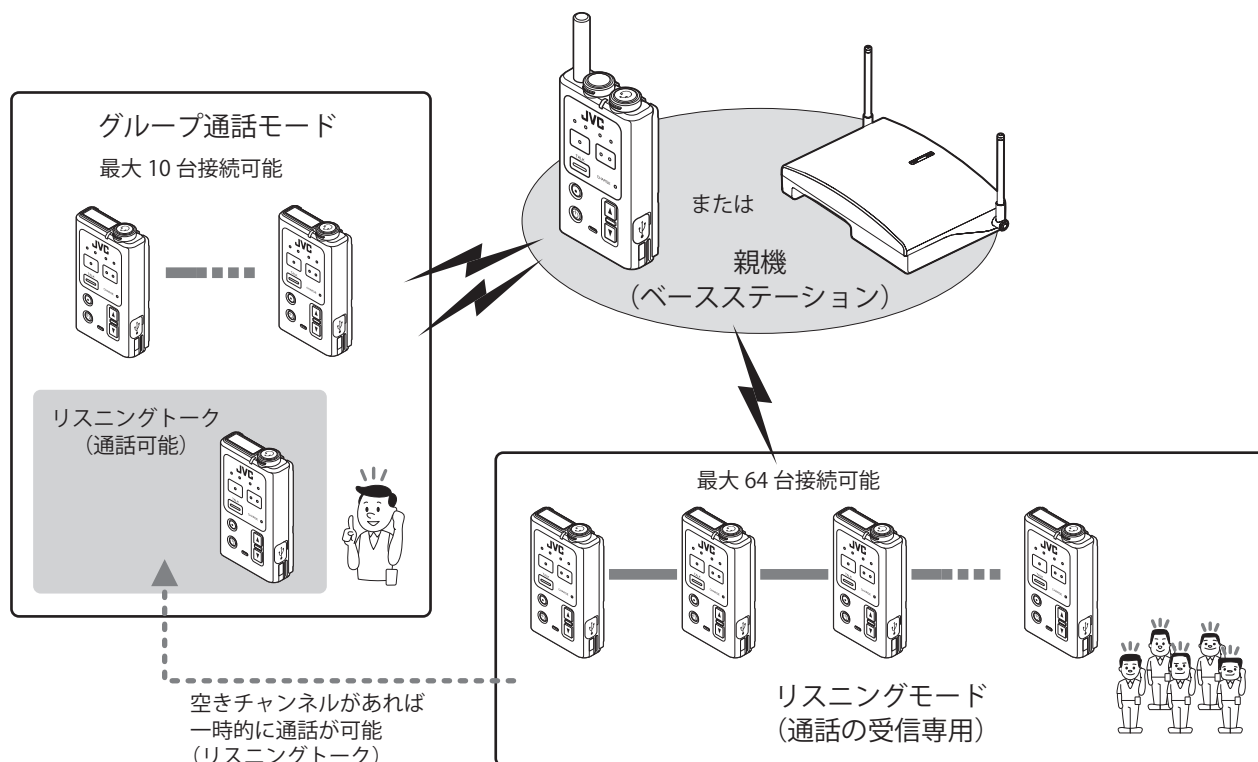
本システムには、複数の子機（トランシーバー）が通話の受信だけをおこなう「リスニングモード」があります。リスニングモードは使用できる環境や子機の動作に制限がありますが、少ない親機（ベースステーション）でより多くの子機を運用することができます。特定の人のみ指示や返事を行い、他の人はその内容を聞くことだけが多い場合などに有効です。

ご注意：

- リスニングモードを使用するためには、子機のシステム設定が必要です。設定変更は設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

リスニングモードの概要

- ・リスニングモードの子機は、通話の受信のみを行います。
- ・ベースステーションに空きチャンネルがある場合、リスニングモード子機は通話を受信するだけでなく、送信することもできます（リスニングトーク/一斉通話モード）。
リスニングモードでの通話の送信方法については、「リスニングモード子機から通話する（リスニングトーク）」（P.44 ページ）をご覧ください。
- ・リスニングモード子機は、電源を入れるとリスニングモードで起動します。
- ・リスニングモードに設定された子機とグループ通話モードの子機は同じシステム内で混在して使用できます。
- ・リスニングモードに設定された子機は、最大 64 台使用できます。



リスニングモードを使う

リスニングモードの制限事項

対応機種：

- ・ポータブルベースステーション WD-D10PBS
- ・ポータブルトランシーバー WD-D10TR
- ・ベースステーション WD-D10BS

使用環境：

接続エリアから圏外にでると、動作 LED が赤色に点灯し、通話を聞くことができなくなります（設定によっては圏外お知らせ音（“プッ、…”という音）がなります）。

圏外から接続エリアにもどると、動作 LED が青色に点滅し、接続グループが音声ガイドされます。

リスニングモードの通話可能エリアのめやすは、接続しているベースステーションから屋内で 30 m ~ 50 m、屋外で約 100 m 以内です。

建物の構造や障害物の有無により通話可能エリアが狭くなることがあります。

メモ：

- トランシーバーの設定によっては音声ガイドが流れないことがあります。（☞ 31 ページ）

動作の制限：

リスニングモードに設定された子機には次のような制限があります。

- ・ [TALK] ボタンを押して通話（リスニングトーク）ができるのは、ベースステーションに空きチャンネルがある場合のみです。また、通話ができる状態になるまでに時間がかかることがあります。
- ・ VOX による通話はできません。
- ・ リスニングトーク中は、グループ切り換えはできません。
- ・ 通話の受信のみをおこなうモードのときは、グループを切り換えることができます。

リスニングモードの表示

お使いの子機がリスニングモードに設定されている場合、電源を入れるとリスニングモードで起動します。

子機のモードは、動作 LED の表示と音声ガイドで確認することができます。

起動モード	LED の表示	モード起動時の音声ガイド
子機モード (グループ通話モード)	緑点滅	トランシーバー
リスニングモード	青点滅 (トーク中は緑点滅)	リスニングモード

メモ：

- 点滅の間隔は通常より長い場合、10 秒以上動作 LED の状態を確認してください。
- トランシーバーの設定によっては音声ガイドが流れないことがあります。（☞ 31 ページ）

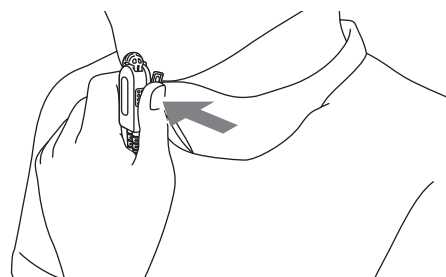
リスニングモード子機から通話する（リスニングトーク）

ベースステーションに空きチャンネルがある場合、リスニングモードの子機を一時的に通話の送信をおこなうモードに切り換える「リスニングトーク」が使用できます。

ご注意：

- リスニングトークや通話の受信のみをおこなうモードへの切り換え時間は、システムの設定や電波環境により長くなることがあります。システム設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押し続ける。



通話が聞こえ続け、通話に混じってリスニングトーク移行音（“プッ…プッ…”という音）がなります。

通話の送信をおこなうモードに切り換わるとリスニングトーク切換音（“プッ”という音）がなり、動作 LED が緑色に点滅します。

- ・ 約 5 秒 [TALK] ボタンを押し続けてもリスニングトーク移行音（“プッ…プッ…”という音）がなり続けるときは、しばらくしてからやりなおしてください。

2 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

3 話し終わったら、[TALK] ボタンをはなす。

[TALK] ボタンをはなして一定時間（約 4 秒）経過すると、動作 LED が赤色に点灯します。その後通話の受信のみをおこなうモードに切り換わり、動作 LED が青色に点滅します。

メモ：

- リスニングトークから通話の受信のみをおこなうモードへの切り換え時間は、トランシーバーの設定により異なります。初期設定では約 4 秒です。設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

リスニングモードを使う

リスニングモード子機から通話する（一斉通話モード）

ベースステーションに空きチャンネルがある場合、リスニングモード中でも一斉通話モードが利用できます。操作方は一斉通話モード（☞ 36 ページ）をご参照ください。

グループを切り換える

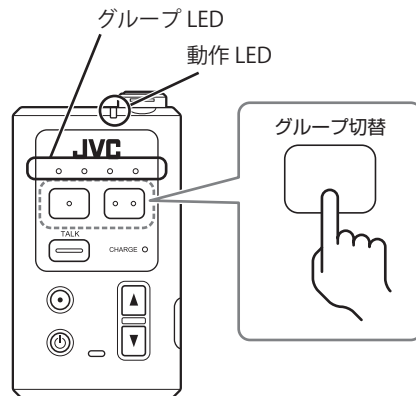
グループ A～D に音声チャンネル 1～4 が設定されているグループのみ切り換え対象になります。

ご注意：

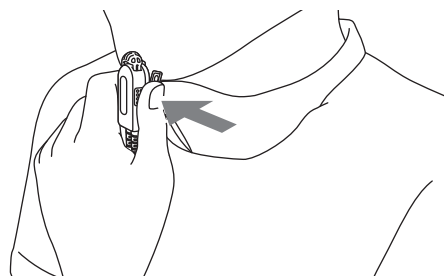
- あらかじめシステムに設定されたグループに切り換えます。グループの設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- 設定するグループ数により、子機の最大接続台数に影響があります。詳しくは設定ソフトウェア WD-ZS10 ユーザーズガイドをご参照ください。
- リスニングトーク中はグループを切り換えることはできません。通話の受信のみをおこなうモードのときにグループを切り換えることができます。
- [グループ切替] ボタンは初期設定では割り当てられていません。任意の機能ボタンに機能を割り当ててお使いください。
設定については設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用していただくか、お買い上げの販売店または設置業者にお問い合わせください。

1 [グループ切替] ボタンを押す。

動作 LED が赤色に点灯します。
しばらくすると動作 LED が青色に点滅し、該当するグループ LED が点灯します。
グループが切り換わると該当するグループ LED が点滅し、接続グループの通話を聞くことができます。



2 コントロールマイクロホンまたはトランシーバーの [TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。



3 元のグループにもどるときは、[グループ切替] ボタンを押し、グループを切り換える。自分のリスニンググループにもどります。

リスニングモードを使う

グループ通話モードに切り換える

リスニングモードの子機をグループ通話モードに切り換えます。

ご注意：

- 子機の起動モードはお使いのシステムによってあらかじめ設定されています。必要がない場合は起動モードは変更しないでください。設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

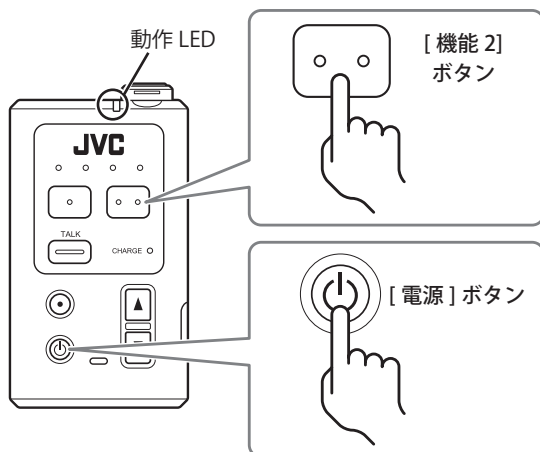
1 電源が入っている場合は動作 LED が消灯するまで [電源] ボタンを長押しして電源を切る。

2 [機能 2] ボタンを押しながら、[電源] ボタンを長押しして電源を入れる。

電源の入れ方については「端末の電源を入れる／切る」(P.24 ページ) をご覧ください。

子機モードで起動します。子機モード起動の音声ガイドが流れ、動作 LED が緑色に点滅します。

モードが切り換わると自分が所属する通話グループの会話が聞こえます。



子機モード（グループ通話モード）とリスニングモード起動時の動作 LED の表示と音声ガイドは下表のとおりです。

起動モード	LED の表示	モード起動時の音声ガイド
子機モード (グループ通話モード)	緑点滅	トランシーバー
リスニングモード	青点滅 (トーク中は緑点滅)	リスニングモード

メモ：

- 一度子機モードで起動すると、次回からは電源を入れるだけで子機モードとして起動します。
- 子機モードのときに再度同じ操作をすると、リスニングモードに変更できます。
- トランシーバーの設定によっては音声ガイドが流れないことがあります。(P.31 ページ)

こんなときは

「故障かな?」と思ったら、修理を依頼する前にお確かめください。

症状	原因	処置	参照ページ
音途切れが発生する	下記の様な場所では、電波の反射や屈折、散乱により、電波が干渉(マルチパスフェージング現象)し、音声途切れで通話が難しくなる場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> 剥き出しの金属の山がまわりにある まわり四辺が金属の壁の部屋や建屋 波形の金属板の近く 製鉄・精錬所 床や天井が金属等々。 	対応については、お買い上げ販売店、または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。	
サービス提供エリア外(圏外)になりやすい	周辺環境や運用状況などから端末が発射する信号の電界強度に影響がでること、サービス提供エリア外(圏外)になりやすくなります。	設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して「通信切断ゾーン選択レベル」と「通信切断判定時間」の調整をおこなうことで多少改善する場合があります。 詳しい内容については、お買い上げ販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートにご相談ください。	48 ページ
[一斉] ボタンや [放送] ボタンを押しても“プップ”という音がして一斉通話や放送ができない。	一斉通話や同じ出力先への放送は同時に 1 人しか使用できません。	一斉通話や放送をおこなっている人が終了するまで待つてからやりなおしてください。	36 ページ
使用中に通話が途切れたりノイズが聞こえたりする。	電波の状態によってベースステーションからの電波が届かなくなり、別のベースステーションを探しています。 また、ベースステーションが見つからなかった場合や、ベースステーションのチャンネルに空きがない場合、いつまでも接続できるベースステーションを探し続け、そのあいだは通信ができなくなります(動作 LED が赤色に点灯します)。	ベースステーションの近くでありながら通信できなくなることが多い場合には JVC ケンウッドカスタマーサポートにご相談ください。また、初期設定で圏外音を小さくすることもできます。詳しくは、お買い上げ販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートにご相談ください。	48 ページ
子機のイヤホンから「ブツ」というノイズが発生することがある。	本システムは 1.9 GHz 帯のデジタル無線通信を使用しています。近くにノイズが発生する機器がある場合、デジタル信号を音声信号に変換するとき、ノイズに変換される場合があります。	ノイズ源となるコンピューターやモーター、放電式空気清浄機などから離れて使用するか、ベースステーションの設置位置をこれらの機器から離れた場所に移動させてください。 ベースステーションに近づきすぎると(2m 以内)、ノイズがでる場合があります。ベースステーションの設置位置を移動させるか離れて使用してください。	5 ページ
子機を接続エリアからサービス提供エリア外(圏外)に移動した場合、接続エリアにもどってもベースステーションにかなり近づかなければ再接続しない。	頻繁にベースステーションとの接続を変更しないよう、また電波の弱い遠くのベースステーションとの接続が起こらないように、電波が強くなければ接続しないようにしています。	接続するときの電波の強さを設定することができます。あまりにも気になるようでしたら、お買い上げ販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートにご相談ください。	48 ページ
すべてのグループの通話が聞こえる。	一斉通話モードになっています。	一斉通話モードを終了し、グループ通話モードへ変更してください。一斉通話モードの終了は、一斉通話モードを開始した人のみができます。	36 ページ
子機をベースステーションに近づけても接続できず、動作 LED が赤点灯になる。	ベースステーションの通話可能接続数を越えています。	ベースステーションの子機接続台数は、スタンドアロン型システムの場合でもベースリンク型システムの場合でも通常音質モードで最大 10 台、高音質モードで最大 5 台です。 上記台数より多くの子機を運用したい場合は、リスニングモードでの運用または上位機種種の WD-3000 シリーズなどをご検討ください。	9 ページ
	ベースステーションに子機が登録されていません。	ベースステーションに子機を登録してください。	25 ページ
ポータブルベースステーション WD-D10PBS /ポータブルトランシーバー WD-D10TR のリスニングモードで通話ができない。	ベースステーションのチャンネルに空きがありません。	お買い上げ販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートにご相談ください。	48 ページ

アフターサービスについて

保証書の記載内容ご確認と保存について

ポータブルベースステーション WD-D10PBS、ポータブルトランシーバー WD-D10TR、ベースステーション WD-D10BSには保証書が別途添付されています。保証書は、お買い上げ販売店でお渡しいたしますので、所定事項をご記入し、記載内容をお確かめいただいたうえで大切に保存してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です（バッテリーパック除く）。

保証書の記載内容により、お買い上げ販売店または弊社サービス部門にて修理いたします。

保証書を別途添付していないオプション機器については、保証書の代わりに領収書などお買い上げ年月日を証明できるものの提示が必要となります。

なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。

故障その他による営業上の機会損失は補償いたしません。

その他詳細は保証書をご覧ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店または JVCケンウッドカスタマーサポートに次のことをお知らせください。

ポータブルベースステーション WD-D10PBS の例

品名	: ポータブルベースステーション
型名	: WD-D10PBS
お買い上げ日	:
故障の状況	: 故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	:
お名前	:
電話番号	:

アフターサービスについてのお問い合わせ先

その他アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店または JVCケンウッドカスタマーサポートにお問い合わせください。

消耗部品について

各機器の取扱説明書の中で消耗部品と記載されているものは、保証期間内でも有償とさせていただきます。お買い求めの際は、お買い上げ販売店または JVCケンウッドカスタマーサポートにお問い合わせください。

商品廃棄について

このシステムの商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例にしたがって適正に処理してください。

仕様

製品の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。


ポータブルベースステーション WD-D10PBS

送受信周波数	: 1.9 GHz 帯
送信電力	: 10 mW 以下 (平均)
電波形式	: F1D、F1E
受信感度	: -90 dBm@BER1x10 ⁻³ 以下
電源	: DC 3.7 V (充電式リチウムイオン電池使用)
使用時間	: 約 8 時間 (親機モードでポータブルトランシーバー 4 台接続時) 約 30 時間 (子機モード)
子機同時接続台数	: 10 台 (通常音質モード) 5 台 (高音質モード)
動作温度範囲	: -10 °C ~ 60 °C
防水・防塵レベル	: IP67 相当 (JIS 防水保護等級 7 級相当)
外形寸法	: 54 mm (幅) × 94 mm (長さ) × 23.5 mm (厚み)
質量	: 約 135 g (バッテリー含む)
仕上げ	: PC 樹脂 黒色
付属品、添付物	: 保証書 1 取扱説明書 (本書) 1 ベルトクリップ 1 ねじ (ベルトクリップ固定用) 2 バッテリーパック (WD-UB110) 1 (バッテリーパックは出荷時に本体に装着されています。)

ポータブルトランシーバー WD-D10TR

送受信周波数	: 1.9 GHz 帯
送信電力	: 10 mW 以下 (平均)
電波形式	: F1D、F1E
受信感度	: -90 dBm@BER1x10 ⁻³ 以下
電源	: DC3.7 V (充電式リチウムイオン電池使用)
使用時間	: 約 24 時間
動作温度範囲	: -10 °C ~ 60 °C
防水・防塵レベル	: IP54 (JIS 防水保護等級 4 級)
外形寸法	: 54 mm (幅) × 94 mm (長さ) × 20.5 mm (厚み)
質量	: 約 118 g (バッテリー含む)
仕上げ	: PC 樹脂 黒色
付属品、添付物	: 保証書 1 取扱説明書 (本書) 1 ベルトクリップ 1 ねじ (ベルトクリップ固定用) 2 バッテリーパック (WD-UB100) 1 (バッテリーパックは出荷時に本体に装着されています。)

ベースステーション WD-D10BS

送受信周波数	: 1.9 GHz 帯
送信電力	: 10 mW 以下 (1 チャンネル当たりの平均電力)
電波形式	: F1D、F1E
受信感度	: -90 dBm@BER 1 × 10 ⁻³ 以下
接続端子	: 音声入力 × 2 [ステレオ標準ジャック]: -10 dBs (平衡または不平衡) 音声出力 × 2 [ステレオ標準ジャック]: -10 dBs (平衡)、-16 dBs (不平衡) リンク端子 × 2 [端子台 2 極] (アップリンク / ダウンリンク) 外部機器制御端子 × 2 [端子台 2 極] データ設定端子 [シリアルインターフェース] 電源端子 [DC ジャック]
電源	: DC 5.2 V (専用 AC アダプター)
消費電力	: 約 5 W
動作温度範囲	: -10 °C ~ 50 °C
防水・防塵レベル	: IP54 (JIS 防水保護等級 4 級)
外形寸法	: 196 mm (幅) × 136 mm (高さ) × 50 mm (奥行)
質量	: 約 995 g
仕上げ	: PC 樹脂 白色
DC プラグ	:  (専用 AC アダプター) 本機の DC プラグは JEITA (一般社団法人電子情報技術産業協会) 規格に準拠しています。
付属品	: 専用 AC アダプター 1 取付プレート 1 (本体にあらかじめ取り付けられています。) 落下防止ワイヤー 1 ねじ (落下防止ワイヤー用) 1 ワッシャー 1 取扱説明書 1 保証書 1

その他

ホールマスター WT-MC60

フレキシブルマイク：単一指向性エレクトレットコンデンサー型

電源：DC 12 V (AC アダプター UN110-1210 (別売) より供給)

外部入力：1 回路、端子板、-20 dBs、10 kΩ、電子平衡

モニター出力：1 回路、端子板、0 dBs ± 2 dBs、100 Ω、電子平衡

モニタースピーカー出力：
300 mW ± 100 mW

消費電流：250 mA 以下 (5%歪率時)

外形寸法：150 mm (幅) × 410 mm (高さ) × 145 mm (奥行)

質量：約 0.5 kg

仕上げ：ダークグレー

マイク部：黒色 (亜鉛メッキ)

コントロールマイクロホン WD-UM100

形式：エレクトレット コンデンサー型

指向性：双指向性

感度：-45 ± 5 dB (1000 Hz)

質量：約 62 g (イヤホン含む)

動作温度範囲：-10 °C ~ 60 °C

外形寸法：21.4 mm (幅) × 45.4 mm (高さ) × 15.5 mm (厚み) (突起物、風防含まず)

仕上げ：黒色

ケーブル：マイク部 840 mm
イヤホン部 60 mm

防塵・防水レベル：IP55 (イヤホン部は除く)

付属品：イヤホンセット 1
ケーブルクランプ 1

適合機種：WD-D10PBS、WD-D10TR

充電台 WD-C100CR

電源：DC5.2 V

充電時間：WD-D10PBS：約 6 時間
WD-D10TR：約 5 時間

使用温度範囲：0 °C ~ 40 °C

外形寸法：100 mm (幅) × 45 mm (高さ) × 60 mm (奥行)

質量：約 106 g

仕上げ：PC 樹脂 黒色

適合機種：WD-D10PBS、WD-D10TR

AC アダプター WD-C100AC

電源：AC100 V、50 Hz / 60 Hz、DC 出力 5.2 V

使用温度範囲：0 °C ~ 40 °C

外形寸法：28 mm (幅) × 46.5 mm (高さ) × 66 mm (厚み) (コード含まず)

コードの長さ：1.9 m

質量：約 75 g

DC プラグ：(⊕ ⊖)

本機の DC プラグは JEITA (一般社団法人電子情報技術産業協会) 規格に準拠しています。

バッテリーパック WD-UB100

外形寸法：35 mm (幅) × 54.6 mm (高さ) × 7.6 mm (厚み)

質量：30 g

公称出力電圧：3.7 V

公称電流容量：1,430 mAh

適合機種：WD-D10TR

バッテリーパック WD-UB110

外形寸法：35 mm (幅) × 54.6 mm (高さ) × 10.8 mm (厚み)

質量：39 g

公称出力電圧：3.7 V

公称電流容量：1,880 mAh

適合機種：WD-D10PBS

イヤホンマイクアダプター WD-UM310

外形寸法：202 mm (幅) × 19 mm (高さ) × 16 mm (厚み)

質量：約 20 g

動作温度範囲：-10 °C ~ 60 °C

仕上げ：ABS 樹脂 黒色

適合機種：WD-D10PBS、WD-D10PBS

対応機種：UCM-100 + UHS-1 / 2 / 3、EMC-12、KHS-35F、KHS-21

無線機接続ケーブル WD-RC100

外形寸法：997 mm (幅) × 23 mm (高さ) × 28 mm (厚み)

質量：約 40 g

動作温度範囲：-10 °C ~ 60 °C

仕上げ：PC 樹脂 黒色

適合機種：WD-D10PBS

対応機種：TCP-D203、TCP-D201、TCP-D503、TCP-D143、TCP-D243

Memo


はじめに

準備する

通話をする

リスニングモードを使う

その他

**JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター**固定電話からは、フリーダイヤル  0120-2727-87携帯電話からは、ナビダイヤル  0570-010-114一部の IP 電話など、フリーダイヤル、
ナビダイヤルがご利用になれない場合は 045-450-8950

FAX を送信される場合は 045-450-2308

住所 〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

受付日 月曜日～土曜日（祝祭日および、弊社休日を除く）

受付時間 月～金曜日 9：30～18：00

土曜日 9：30～12：00、13：00～17：30

ホームページ <https://www.jvc.com/jp/pro/>**株式会社 JVCケンウッド**

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12